698-8
12005015815 95

K182-43

帝國圖書館藏書

雜纂

其貳

伊藤博文公編

金子堅太郎
栗野慎一郎
尾佐竹猛
平塚篤

校訂

秘書類纂刊行會發行

帝國圖書館藏書 大正九年納本

698-8

秘書類纂

雜纂 其貳

目次

五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制……一
五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制（二）……七
五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制（三）……九
皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者離縁ノ場合及皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者離縁ノ場合ニ於ケル恩典ニ關スル內規……一一
皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者離縁ノ場合及皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者離婚ノ場合ニ關スル件……一五
五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制……二一
五世以下ノ皇族男子ヲ華族ニ列スルノ制……二三
五世以下ノ皇族男子ノ華族ニ列シ又ハ華族ノ家ニ入ルヲ許シ並ニ財產上別ニ一家ヲ爲サシムルノ制……二八

大祀令……二六
立儲令……四三
皇統譜令……四六
大統譜……五七
大統系圖……六六
皇親系圖……七九
皇親譜……九二
皇親譜……一三一
皇統御系譜……一三八
登極令草案……一八五
登極令草案……一九〇
卽位新式抄……福羽美靜……一九四
皇族身位令立案要旨……二一〇
皇族身位令案……二一九
皇族身位令定本……二二七

皇族列次令……二四八
皇室親族令立案要旨……二五一
皇室親族令案……二六一
皇室親族令義解案……二七〇
英獨協商ト日露同盟……二九九
日英通商及航海條約草案……三〇三
在英加藤高明ヨリ陸奥宗光ヘ私簡……三一三
山縣大使派遣ニ付テノ私見……西德二郎……三二六
日清戰後國際事情情報……三三〇
デットリング書簡寫……三三七
新政施行ニ付上申……四三一
小堀演說書拔……二四五
舊幕ヘ差出金名前帳……二四六
戶籍法之義ニ付上申之略述……二六一
舊敎部省昨九年第四拾號達書之義ニ付上申之略述……二六二

三代相恩之者御詮議ニ付上申之略述……三六五
平民小林萬平嘆願之義ニ付略述……三六九
御陵墓之儀ニ付舊教部省ヘ伺之件々御指令無之ニ付尚又内務省ヘ伺之略述……三七〇
御陵墓掌了被差置候ニ付伺……三七一
第百六十四號公布之義ニ付建言……三七三
第三百號及第三百十七號公布之義ニ付建言……三七五
新發明之器械製造之者ヘ賞與之儀伺……三七八
洪水ニ依リ破堤修繕費別途御渡之儀ニ付上申……三八一
昨九年九月洪水ニテ破壞相成候場所修繕着手之儀ニ付上申……三八三
急破修繕費別途御下渡之儀ニ付再申……三八四
洪水ニ依リ破堤修繕費別途御下渡之儀ニ付上申……三八七
洪水ニ依リ破堤修繕費別途御下ケ渡之儀ニ付再ビ上申……三八九
洪水ニ依リ破堤修繕費別途御下ケ渡之儀ニ付再三上申……三九〇
出版板權御願……三九一
出版板權御願……三九三
出版板權御願……三九五

增補日本外史並ニ政記發賣御禁止ニ付上願書……三九八
賴又次郎嘆願書之儀ニ付伺……三九九
出版板權御願……四〇一
地租改正條例ニ付上申……四〇四
改租金納ニ確定シテ農家困却ナスノ大意……四〇四
神官僧侶之義ニ付上申……四一三
教部省被廢候ニ付以後神官僧侶處分見込……四一三
社倉規則書……四三一
白石資風日記拔萃……四四二
李伯病床慰問記話……四五二
馬關條約原案草稿……四六〇
前原一誠書簡並ニ檄文……四七二
控訴上告手續布達……四七五
司法省定則竝職制……四八三
鑛山寮職制竝事務章程……四九四

秘書類纂

雜纂

貳

目次

內務省職制及事務章程……六

——（了）——

五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制

上諭案

朕皇室ノ威嚴ヲ永遠ニ保持スル爲、祖宗ノ遺法ニ則リ、五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ必要アルヲ認メ、皇室典範第六十二條ニ依リ、皇族會議及ビ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ、茲ニ其ノ制ヲ定メ、朕ガ後嗣及ビ子孫ヲシテ遵由スル所ヲ知ラシム。

第一條　五世以下ノ皇族男子ハ勅旨ニ由リ華族ニ列シ、爵ヲ授クルコトアルベシ。但シ現ニ宮

號ヲ有スル者及ビ其ノ男子ニシテ宮號ヲ繼承スル者ハ此ノ限ニ在ラズ。

『……』ハ原本朱書以下之レニ倣フ

『恭テ按ズルニ、大寶令ニ、凡皇兄弟皇子皆爲二親王一、以外並爲二諸王一、自二親王一五世、雖レ得二王名一、不レ在二皇親之限一トアリ。慶雲三年ノ詔ニ、五世之王、在二皇親之限一、其承レ嫡者相承爲レ王、自餘如レ令ト云ヘリ。延暦十年ニ至リ勅シテ令制ニ復ス。弘仁五年ノ詔ニ曰ク、思下除二親王之號一、賜二朝臣之姓一、編爲二臣籍一、後從二事於公一、出身之初、一叙中從六位上ト。天長九年ノ詔ニ曰ク、宜下七世以下計レ數、至二于五世一、課役蠲除ト。貞觀十五年ノ詔ニ曰ク、早停二王號一、卽賜二朝臣一、以節二國家之經用一、頗加二公謙之篤情一ト。抑モ惠ヲ推シ、德ヲ施シ、以テ親親ノ恩ヲ顧念スルコト、費ヲ節シ幹ヲ强クシ、以テ皇室ノ尊嚴ヲ保持スルトハ共ニ列聖深意ノ存スル所ナリトス。今皇室典範ハ、皇室ノ子孫累世皇族タルコトヲ失ハザラシムルノ主義ヲ取ル。本制モ亦敢テ五世以下ノ皇族男子ヲ以テ悉ク臣籍ニ列スベシトスルニ非ラズ。累世皇族タル典範ノ主義ヲ本則トシ、唯々勅旨ニ由リ華族ニ列シ爵ヲ授ケラルヽコトアルベキヲ規定シ、之ガ變通ノ道ヲ開キ、萬世ノ皇基ヲ鞏固ニセムコトニ外ナラズ。然レドモ皇族ニシテ降リテ臣籍ニ列スルハ事體初メヨリ基重ニ屬ス。本制第一條ニ於テ勅旨ニ由リト云ヒ、第二條ニ於テ勅許ヲ經テト云フ。並ニ微ヲ防ギ濫ヲ杜グニ在リ。又皇室典範ハ皇位繼承ノ順序ニ

五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制

於テ、皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣ヲ認メズ。本制世數ヲ計フルモ亦實系ニ依ルベキハ論ヲ待タズ。而シテ本條但書ニ、現ニ宮號ヲ有スル者トアルハ本制創定ノ當時ニ於テ宮號ヲ有スル皇族男子ヲ謂フナリ』

第二條　五世以下ノ皇族男子ハ勅許ヲ經テ華族ノ家督相續人トナリ、又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得。但シ第一條但書ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ。

『恭デ按ズルニ、五世以下ノ王已ニ勅旨ニ由リテ臣籍ニ列セラルヽコトアリ。則チ其ノ出デテ華族ノ家督相續人トナルモ亦不可ナルヲ見ズ。是レ本條ノ規定アル所以ナリ。其ノ家督相續ノ目的ヲ以テトアリテ、單ニ他人ノ家ニ入ルヲ許サヾルハ、天潢ノ末流ハ降リテ臣籍ニ在リト雖モ、仍宜ク尊榮ノ地位ヲ有スベキヲ以テナリ』

第三條　皇族男子ニシテ華族ニ列セラレタルトキハ特ニ家名ヲ賜フ。

『恭デ按ズルニ、皇族ニ姓ヲ賜フハ本朝上代ノ古制ニシテ、聖武天皇ノ朝、從三位葛城王ノ請ヲ以テ之ニ橘宿禰ノ姓ヲ賜ヒシコトアリ。桓武天皇ノ延曆六年、光仁天皇ノ皇子諸勝ニ廣根朝臣ト賜ヒ、皇子岡成ニ長岡朝臣ト賜ヒ、嵯峨天皇ノ朝、皇族男女三十人ニ源朝臣ト賜ヒ、又葛原親王ノ子高棟ニ平朝臣ト賜ヒ、阿保親王ノ子行平業平ニ在原朝臣ト賜ヒシガ如キ最モ顯著ナルモノトス。而シテ今姓尸ニ代フルニ家名ヲ以テシタルハ、今日古ノ姓尸ヲ用ヰルコトナキニ由ルナリ』

第四條　華族ニ列セラレ、又ハ華族ノ家ニ入ル者ニシテ、配偶者又ハ子孫アルトキハ該配偶者又ハ子孫ヲシテ其ノ家ニ入ラシムルモノトス。

『恭デ按ズルニ、皇族男子ノ降リテ臣籍ニ居ルトキハ、倫序上自然其ノ配偶者又ハ子孫ノ仍留リテ皇親ノ限ニ在ルベキ理ナシ。故ニ本條ヲ規定ス。若シ其ノ子孫ニシテ未ダ臣籍ニ列セザル以前ニ於テ結婚シタルモノ、離婚ノ場合ニ在テモ亦直ニ其ノ家ニ入ラシムルモノトス。但シ此ノ規程ハ固ヨリ其ノ尊屬親若クハ旁系親族ト相渉ラザルハ論ナキナリ。

第五條　華族ニ列セラレ又ハ華族ノ家ニ入リタル者アルトキハ、皇室典範第三十三條ニ準ジ宮内大臣之ヲ公告ス。

前項ニ關スル記錄ハ圖書寮ニ於テ尚藏ス。

五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制　五

『恭デ按ズルニ、皇族男子ニシテ諸臣ノ列ニ入ルハ宜シク其ノ誕生、命名、婚嫁、薨去ト齊シク亟ニ臣民ヲシテ知悉セシムベシ。故ニ本條ヲ規定ス。其ノ第二項ハ則チ皇室典範第三十四條ニ準ズルナリ』

第六條　華族ニ列セラレタル者ニハ世襲財産ヲ創設スル爲特ニ財産ヲ賜フ。

『恭デ按ズルニ、皇族已ニ華族ニ列ス、其ノ自營承襲ノ道ハ世襲財産ヲ創設スルニ在リ。是レ本條ノ規定ナカルベカラザル所以ナリ』

第七條　皇族男子ニシテ臣籍ニ入リタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ズ。

『恭デ按ズルニ、上下ノ名分一タビ定リテ復タ變易スベカラザルハ我ガ肇國以來ノ通義トス。中世一二臣列ニ降リシ皇族ニシテ復タ親王トナリ或ハ竟ニ皇祚ヲ踐ミ給ヒシ（宇多天皇）ナキニ非ラズト雖モ、以テ永世率由スベキ恒範ト爲スベカラズ。故ニ本條ハ分義ノ正シキニ從ヒ宗潢ノ貴ト雖モ、降リテ華族ニ列スル者ハ再ビ皇族ニ陞スヲ容ルサヾルノ制ヲ取レリ』

五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制（二）

朕惟フニ皇子孫奕葉ノ隆昌ヲ致スハ禍此ヨリ大ナルハ莫シ、特ニ皇室ノ威嚴ヲ永遠ニ保持スルガ爲ニハ、皇族男子ヲ臣籍ニ列シ以テ藩屏タラシムルノ必要アルヲ認ム。茲ニ皇室典範第六十二條ニ依リ皇族會議及ビ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇族授爵ノ制ヲ定メ、朕ガ後嗣及ビ子孫ヲシテ遵由スル所ヲ知ラシム。

第一條　五世以下ノ皇族男子ニハ勅旨ニ由リ又ハ請願ニ依リ爵ヲ授クルコトアルベシ。

第二條　五世以下ノ皇族男子ハ勅許ヲ經テ有爵者ノ家督相續人トナルコトヲ得。

第三條　授爵ノ請願ヲ爲シ又ハ有爵者ノ家督相續人ト爲ルノ勅許ヲ請ハムト欲スル者ニシテ父母若クハ配偶者又ハ成年ノ子孫アルトキハ其ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。

第四條　爵ヲ授ケラルヽ者ニシテ配偶者又ハ子孫アルトキハ該配偶者又ハ子孫ヲシテ其ノ籍ニ入ラシムルモノトス。

第五條　爵ヲ授ケラレタル者及ビ有爵者ノ籍ニ入リタル者アルトキハ皇室典範第三十二條ニ準ジ宮内大臣之ヲ公告ス。

前項ニ關スル記錄ハ圖書寮ニ於テ尚藏ス。

第六條　爵ヲ授ケラレタル者ニハ世襲財産ヲ創置スル爲基本財産ヲ賜フ。

有爵者ノ家督相續人トナル者ニハ一時限リ相當ノ財産ヲ賜フコトアルベシ。

五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制（三）

朕惟フニ皇子孫奕葉ノ隆昌ヲ致スハ福此ヨリ大ナルハ莫シ、特ニ皇室ノ威嚴ヲ永遠ニ保持スルガ爲ニハ皇族男子ヲ臣籍ニ列シ以テ藩屏タラシムルノ必要アルヲ認ム。茲ニ皇室典範第六十二條ニ依リ皇族會議及ビ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇族授爵ノ制ヲ定メ、朕ガ後嗣及ビ子孫ヲシテ遵由スル所ヲ知ラシム。

第一條　五世以下ノ皇族男子ニハ勅旨ニ由リ又ハ請願ニ依リ爵ヲ授クルコトアルベシ。

第二條　五世以下ノ皇族男子ハ勅許ヲ經テ有爵者ノ家督相續人ト爲ルコトヲ得。

第三條　授爵ノ請願ヲ爲シ又ハ有爵者ノ家督相續人ト爲ルノ勅許ヲ請ハント欲スル者ニシテ父母若クハ配偶者又ハ成年ノ子孫アルトキハ其ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。

第四條　爵ヲ授ケラルヽ者ニシテ配偶者又ハ子孫アルトキハ該配偶者又ハ子孫ヲシテ其ノ籍ニ入ラシムルモノトス。

第㈥五條　爵ヲ授ケラレタル者及ビ有爵者ノ籍ニ入リタル者アルトキハ皇室典範第三十三條ニ準ジ宮内大臣之ヲ公告ス。

前項ニ關スル記錄ハ圖書寮ニ於テ尚藏ス。

第㈦六條　爵ヲ授ケラレタル者ニハ世襲財産ヲ創置スル爲基本財産ヲ賜フ。

有爵者ノ家督相續人ト爲ル者ニハ一時限リ相當ノ財産ヲ賜フコトアルベシ。

皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者離緣ノ場合及皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者離婚ノ場合ニ於ケル恩典ニ關スル内規

第一條　皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者離緣ノ場合及ビ皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者離婚ノ場合ニ恩典ヲ賜フト否トハ此ノ内規ノ定ムル所ニ依ル。

第二條　皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者左ノ事由ニ依リ離緣トナリタルトキハ爵及財産ヲ併セ賜フ。

一、養親ガ爵ヲ失ヒ又ハ之ヲ返上シタルコト。

二、養親ガ華族ノ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルコト。

三、養親ニ民法第八百六十六條第一號第二號又ハ第八號ニ該當スル行爲アリタルコト。

皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者離緣ノ場合及皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者離婚ノ場合ニ於ケル恩典ニ關スル内規

四、養親ノ直系尊屬ニ民法第八百六十六條第三號ニ該當スル行爲アリタルコト。

前項各號ノ外養子ニ重大ナル過失ナクシテ離緣トナリタルトキ亦同ジ。

第三條　皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者左ノ事由ニ依リ離緣トナリタルトキハ爵及ビ財產共ニ之ヲ賜フコトナシ。

一、養子ガ自己ノ行爲ニ基ヅキ華族ノ族稱ヲ失ヒ又ハ之ヲ除カレ若クハ其ノ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルコト。

二、養子ニ民法第八百六十六條第一號第二號第五號第六號又ハ第八號ニ該當スル行爲アリタルコト。

三、前各號ノ外養子ニ重大ナル過失アリタルコト。

第四條　皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者左ノ事由ニ依リ離婚トナリタルトキハ財產ヲ賜フ。

一、夫ガ爵ヲ失ヒ若クハ之ヲ返上シタルコト。

二、夫ガ自己ノ行爲ニ基ヅキ華族ノ族稱ヲ失ヒ又ハ之ヲ除カレ若クハ其ノ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルコト。

三、夫ニ民法八百十三條第一號第二號第五號第六號又ハ第八號ニ該當スル行爲アリタルコト

四、夫ノ直系尊屬ニ民法第八百十三條第七號ニ該當スル行爲アリタルコト。

前項各號ノ外妻ニ重大ナル過失ナクシテ離婚トナリタル時亦同ジ。

第五條　皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者左ノ事由ニ依リ離婚トナリタルトキハ財產ヲ賜フコトナシ。

一、妻ガ自己ノ行爲ニ基ヅキ華族ノ族稱ヲ失ヒ又ハ之ヲ除カレ若クハ其ノ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルコト。

二、妻ニ民法第八百十三條第一號第二號第五號第六號又ハ第八號ニ該當スル行爲アリタルコト。

三、前各號ノ外妻ニ重大ナル過失アリタルコト。

第六條　前四條ニ揭ゲタル事實ノ有無ハ華族令ニ依ル處分又ハ裁判ニ因リ確定シタルモノヲ除クノ外宮內大臣ヲシテ審査セシメタル後之ヲ勅裁ス。

第七條　第二條第四條ノ規定ハ離緣又ハ離婚ノ後入ルベキ家アル場合又ハ現ニ相當ノ財產ヲ所有セル場合ニ之ヲ適用セザルコトアルベシ。

第八條　第三條及ビ第五條ノ場合ニハ事情ヲ參酌シ特旨ニ依リ一時若クハ相當ノ期間又ハ終身間扶助料ヲ賜フコトアルベシ。

第九條　華族ニ降嫁シタル皇族女子ニシテ內親王又ハ女王ノ稱ヲ保有スル者ハ第五條ノ規定ニ皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者離緣ノ場合及皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者離婚ノ場合ニ於ケル恩典ニ關スル內規

該當スル場合ニ在テモ仍第四條ノ規定ヲ適用スルコトアルベシ。

第十條　此ノ內規ニ依リ賜フベキ財産又ハ扶助料ノ額ハ離緣又ハ離婚トナリタル當時ノ事情ニ應ジテ之ヲ勅定ス。

皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者離緣ノ場合及皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者離婚ノ場合ニ關スル件

恭デ按ズルニ、凡ソ離緣及ビ離婚ハ民法ノ規定、協議ニ依ルモノト、裁判ニ依ルモノトノ二アリ。其ノ裁判ニ依ルモノニ付テハ法律上事由ノ一定セルモノアルヲ以テ、其ノ事由ノ如何ニ依リ、爵又ハ財産ヲ賜フベキ場合ト否トヲ揣摩スルコト必シモ難キニ非ラズ。然レドモ華族ノ體面ニ視テ離緣又ハ離婚ハ裁判ニ依ルモノ甚ダ稀ニシテ、協議ニ依ルモノ最モ多キニ居ルト測斷セザルベカラズ。而シテ協議ニ依ルモノニ至テハ其ノ事由千種萬態豫メ之ヲ推測シ得ベカラザルノミナラズ、華族令ノ規定ニ基ヅク制裁ノ結果ニ由ル場合モ亦尠シトセズ。故ニ其ノ事アルニ當リテハ宜シク査覈ヲ嚴シ事情ヲ窮メテ後始メテ爵又ハ財産ヲ賜フベキ場合ト否トヲ酌度

裁定セラルベシ。則チ豫メ其ノ事由ヲ懸擬シテ皇室令中ニ明條ヲ掲ゲ、其ノ他内規ヲ設ケテ一律ニ之ガ畛域ヲ分劃スベキモノニ非ザルナリ。然レドモ當初帝室制度調査局立案審議ノ精神ヲ明カニスル爲、試ミニ之ガ區別ヲ假定セバ大體左ノ如クナルベキヲ妥當ナリト認ム。

第一　離婚ノ場合　皇族男子ニシテ華族ノ養子トナリタル者

（イ）左ニ掲ゲタル事由ニ依リ離緣アリタルトキハ爵及ビ財產共ニ之ヲ賜ラザルヲ可トス。

一、養子ガ自己ノ行爲ニ基ヅキ華族令ニ依リテ華族ノ族稱ヲ失ヒ又ハ之ヲ除カレ若クハ其ノ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルコト。

二、養子ニ民法第八百六十六條第一號第二號第五號第六號又ハ第八號ニ該當スル行爲アリタルコト。

三、前各號ノ外養子ニ重大ナル過失アリタルコト。

（ロ）左ニ掲ゲタル事由ニ依リ離緣アリタルトキハ爵及ビ財產共ニ之ヲ賜フヲ可トス。

一、養子ガ華族令ニ依リテ爵ヲ失ヒ又ハ華族ノ族稱ヲ除カレ若クハ其ノ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルコト。

二、養親ニ民法第八百六十六條第一號第二號又ハ第八號ニ該當スル行爲アリタルコト。

三、養親ノ直系尊屬ニ民法第八百六十六條第三號ニ該當スル行爲アリタルコト。

四、前各號ノ外養子ニ重大ナル過失アラザルコト。

第二　離婚ノ場合　皇族女子ニシテ臣籍ニ嫁シタル者

（イ）左ニ掲ゲタル事由ニ依リ離婚アリタルトキハ財產ヲ賜ハラザルヲ可トス。

一、妻ガ自己ノ行爲ニ基ヅキ華族令ニ依リテ華族ノ族稱ヲ失ヒ又ハ之ヲ除カレ若クハ其ノ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルコト。

二、妻ニ民法第八百十三條第一號第二號第五號第六號又ハ第八號ニ該當スル行爲アリタルコト。

三、前各號ノ外妻ニ重大ナル過失アリタルコト。

（ロ）左ニ掲ゲタル事由ニ依リ離婚アリタルトキハ財產ヲ賜フヲ可トス。

一、夫ガ自己ノ行爲ニ基ヅキ華族令ニ依リテ爵又ハ華族ノ族稱ヲ失ヒ又ハ之ヲ除カレ若クハ其ノ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルコト。

二、夫ニ民法第八百十三條第一號第五號第六號又ハ第八號ニ該當スル行爲アリタルコト。

三、夫ノ直系尊屬ニ民法第八百十三條第七號ニ該當スル行爲アリタルコト。

四、前各號ノ外妻ニ重大ナル過失アラザルコト。

右謹デ奉答ス。

皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者離緣ノ場合及皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者離婚ノ場合ニ關スル件

明治四十年五月十三日

男爵　臣　伊東巳代治

民法參照

第八百八條　夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得。

第八百十三條　夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得。

一、配偶者ガ重婚ヲ爲シタルトキ。

二、妻ガ姦通ヲシタルトキ。

三、夫ガ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ。

四、配偶者ガ僞造、賄賂、猥褻、竊盜、詐欺取財、受寄物費消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第百七十五條、第二百六十條ニ揭ゲタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ。

五、配偶者ヨリ同居ニ堪ヘザル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ。

六、配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ。

七、配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ。

八、配偶者ガ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ。

九、配偶者ノ生死ガ三年以上分明ナラザルトキ。

十、婿養子緣組ノ場合ニ於テ離緣アリタルトキ又ハ養子ガ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離緣若クハ緣組ノ取消アリタルトキ。

第八百六十二條　緣組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離緣ヲ爲スコトヲ得。

養子ガ十五年未滿ナルトキハ其ノ離緣ハ養親ト養子ニ代リテ緣組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス。

養親ガ死亡シタル後養子ガ離緣ヲ爲サントス欲スルトキハ戶主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得。

第八百六十六條　緣組ノ當事者ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離緣ノ訴ヲ提起スルコトヲ得。

皇族ヨリ華族ノ養子トナリタル者離緣ノ場合及皇族ヨリ華族ニ降嫁シタル者離婚ノ場合ニ關スル件

一、他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ。
二、他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ。
三、養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ。
四、他ノ一方ガ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ。
五、養子ニ家名ヲ瀆シ又ハ家産ヲ傾クベキ重大ナル過失アリタルトキ。
六、養子ガ逃亡シテ三年以上復歸セザルトキ。
七、養子ノ生死ガ三年以上分明ナラザルトキ。
八、他ノ一方ガ自己ノ直系尊屬ニ對シ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ。
九、婿養子緣組ノ場合ニ於テ離婚アリタル又ハ養子ガ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ。

五世以下ノ皇族男子ヲ臣籍ニ列スルノ制

朕皇室ノ威嚴ヲ永遠ニ保持スルガ爲メ祖宗ノ遺法ニ遵ヒ則リ皇族男子ヲ臣籍ニ降スノ必要アルヲ認メ皇室典範第六十二條ニ依リ皇族會議及ビ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ茲ニ其ノ制ヲ定メ朕ガ後嗣及ビ子孫ヲシテ遵由スル所ヲ知ラシム。

第一條　五世以下ノ皇族男子ニハ勅旨ニ由リ華族ニ列シ爵ヲ授クルコトアルベシ。

第二條　五世以下ノ皇族男子ハ勅許ヲ經テ華族ノ養子トナルコトヲ得。

華族ノ養子トナリ又ハ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ

第三條　皇族男子ニシテ華族ニ列セラレタルトキハ特ニ家名ヲ賜フ。

第四條　華族ニ列セラレ又ハ華族ノ家ニ入ル者ニシテ配偶者又ハ子孫アルトキハ該配偶者又ハ子孫ニシテ其ノ家ニ入ラシムルモノトス。

第五條　華族ニ列セラレ又ハ華族ノ家ニ入リタル者アルトキハ皇室典範第三十三條ニ準ジ宮内大臣之ヲ公告ス。

前項ニ關スル記錄ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス。

第六條　華族ニ列セラレタル者ニハ世襲財產ヲ創設スル爲メ基本財產ヲ賜フ。

第七條　皇族ニシテ臣籍ニ入リタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ズ。

五世以下ノ皇族男子ヲ華族ニ列スルノ制

附、義解草案

第一條　五世以下ノ皇族男子ニハ勅旨ニ由リ華族ニ列シ爵ヲ授クルコトアルベシ。

『恭デ按ズルニ、天潢ノ末流ヲシテ永ク皇族ノ尊榮ヲ保タシムルハ所謂親親ノ義ニ適フト雖モ、年ヲ經、世ヲ累ヌル間、源流愈々遠クシテ支族愈々滋シ。瓜葛衍蔓隨テ之ニ給スル皇室ノ費途倍々加ハリ、有限ノ內帑ヲ以テ其ノ浩費ヲ充タスニ勝ヘザルノ虞アルノミナラズ、動モスレバ輒チ亂階之ニ乘ズルコトナキヲ保セズ。古昔列聖皇子孫ヲ降シテ臣籍ニ入ル、ノ制ヲ設ムル其ノ旨寔ニ徵ナリト謂フベシ。本條皇族男子ヲ華族ニ列シ爵ヲ授クルコトアルベキヲ規定シ、尙ホ限ルニ五世以下ヲ以テスルハ大寶令ニ所謂自ニ親王一五世、雖レ得ニ王名一、不レ在ニ皇親之限一トノ制ニ準ズルナリ。而カモ之ヲ

中古ニ稽フルニ、五世以下ノ皇族必ラズシモ盡ク臣籍ニ降セシニアラズ。慶雲ニ在テハ絕籍ノ痛ヲ念ヒ令制ヲ更メテ之ヲ皇親ノ限ニ居キ、延曆ノ季ニ逮ビテハ其ノ弊ヲ懲清スル爲メ舊制ニ復シテ臣籍ニ降セリ。天長ニ當テハ王號五世ニ止ムルノ典例ヲ存スルモ、資陰ニ由レル課役蠲除ノ制限ヲ延バシ七世以下五世ニ及ボセリ。要スルニ皆時ニ應ジ勢ニ從ヒ事宜ヲ圖リテ增損裁定スルモノトス。特ニ本條五世以下ノ皇族ヲ降シテ臣籍ニ入ルヽノ門ヲ啓クモノハ古今ノ沿革ニ鑑ミ百年ノ利害ヲ慮カリ濫弊ナカラシメムトノ意ニ外ナラザルナリ』

第二條　五世以下ノ皇族男子ハ勅許ヲ經テ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナル事ヲ得

『恭テ按ズルニ、「皇室典範第四十二條ニ皇族ノ間養子ヲ爲スノ禁ヲ設ク、蓋シ宗系相紊ルヲ恐ルヽナリ、然ルニ今入リテ華族ノ養子トナルヲ許ス、理義ノ乖戻ヲ見ルガ如シト雖モ、抑モ亦說アルナリ」前條已ニ五世以下ノ皇族男子勅旨ニ由リ華族ニ列スル事アルベキヲ謂フ、則チ同一ノ華族勅許ヲ經ルニ於テ華族ノ家督相續人又ハ養子トナルヲ得ベキハ當然ノ成果ニ屬ス、而カモ朝旨ニ由ルニアラズ自ラ請フテ臣籍ニ就クモノ、事ニ於テ寧ロ允妥ナリトス、但シ皇族男子ハ系ノ遠近、族ノ親疎ニ拘ラズ、齊シク皇位繼承ノ權ヲ有ス、故ニ進退必ラズ勅許ニ須タザルベカラズ、是レ深ク觀察スベキナリ、其ノ特ニ家督相續ノ目的ヲ以テ云々ト書スルハ、華族ノ家ニ入ルモノ其ノ家ヲ繼ガズシテ或ハ附籍トナリ、又ハ轉ジテ他姓ヲ襲グ等ノコトナカラシメムトナリ』

第三條　皇族男子ニシテ華族ニ列セラレタルトキハ特ニ家名ヲ賜フ。

『恭テ按ズルニ、賜姓ノ例ハ蚤ク上世ニ始マリ、中古ニ迄リテ皇子孫ノ臣籍ニ列スルニ際シ亦必ラズ之ヲ賜フ。卽チ聖武ノ朝ニ仕テハ敏達天皇六世ノ孫葛城王姓ヲ橘ト賜ヒ、諸兄ト稱シテ始メテ臣籍ニ列シ、嵯峨ノ朝ニ在テハ信弘常明ノ四皇子外皇男女若干人ニ源姓ヲ賜ヒ、宇多ノ朝ニ在テハ桓武天皇ノ皇曾孫高望王ニ平姓ヲ賜ヒ、並ニ臣籍ニ入リタル如キ其ノ最モ彰著ナルモノナリ。後世ニ逮ビ姓氏ノ外名ニ冠スルニ苗字ヲ以テシ遂ニ俗姓又ハ家名トシテ襲用セラルヽニ至リ、本條賜姓ノ古例ヲ取ラズ、家名ヲ賜フトスルハ現時多ク本姓ヲ用ユルノ必要ナク一般ノ稱呼家名ヲ使用スルノ慣例ナレバナリ』

第四條　華族ニ列セラレ又ハ華族ノ家ニ入ル者ニシテ配偶者又ハ子孫アルトキハ該配偶者又ハ

子孫ヲシテ其ノ家ニ入ラシムルモノトス。

『恭デ按ズルニ、本條ハ第一條、第二條ノ文意ヲ推溶スルモノトス。卽チ皇族男子ニシテ已ニ華族ニ列スル以上、之ガ配偶者又ハ子孫タルモノ同時ニ其ノ籍ニ歸スルコト素ト自然ノ倫序ト云フベシ』

第五條　華族ニ列セラレ又ハ華族ノ家ニ入リタル者アルトキハ皇室典範第三十三條ニ準ジ宮內大臣之ヲ公告ス

前項ニ關スル記錄ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス。

『恭デ按ズルニ、皇位繼承ノ權ヲ有スル皇族男子ニシテ諸臣ノ列ニ入ル事體重大、臣民ノ須ラク周知スベキ所、故ニ皇族ノ誕生、命名、婚嫁、薨去ト一例シテ世ニ公ニスルナリ。

其ノ記錄ハ潢流ノ下ツテ臣列ニ歸スル分岐ヲ明カニスルモノトス。

之ヲ圖書寮ニ尙藏スルハ嫌疑ヲ決シテ覬覦ヲ後代ニ絕ツ所以ナリ』

第六條　華族ニ列セラレタル者ニハ世襲財產ヲ創設スル爲メ基本財產ヲ賜フ。

『恭デ按ズルニ、凡ソ皇族ハ其ノ儀廩ヲ皇室經費ニ仰ギ別ニ財源ヲ有スルモノニアラズ。而シテ今華族ニ列スルニ於テ一切ノ經費皇室ノ支給ヲ止ム。則チ本條世襲財產ヲ創設スル爲メ基本財產下賜ノコトヲ規定スルハ其レヲシテ獨立自營華族ノ品位ヲ永遠ニ保タシムルノ地ヲ爲サムトナリ』

第七條　皇族ニシテ臣籍ニ入リタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ズ。

『恭デ按ズルニ、上下ノ名分一タビ定リテ復タ變易スベカラザルハ我ガ肇國以來ノ通義トス。故ニ宗洪ノ貴ト雖モ、降ツテ華族ニ列スル者ハ臣民ノ分玆ニ定マリ、斷ジテ再ビ皇族ニ陞スヲ容ルサズ、紛議ヲ未發ニ避ケ、亂萠ヲ百代ニ絕ツノ道誠ニ此ノ如クナラザルベカラザルナリ』

五世以下ノ皇族男子ノ華族ニ列シ又ハ華族ノ家ニ入ルヲ許シ並ニ財産上別ニ一家ヲ爲サシムルノ制

上諭案

朕皇室ノ威嚴ヲ永遠ニ保持スル爲、五世以下ノ皇族男子ノ華族ニ列シ又ハ華族ノ家ニ入ルヲ許シ並ニ財産上別ニ一家ヲ爲サシムルノ必要ヲ認メ皇室典範第六十二條ニ依リ皇族會議及ビ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ茲ニ其ノ制ヲ定メ朕ガ後嗣及ビ子孫ヲシテ遵由スル所ヲ知ラシム。

第一條　五世以下ノ皇族男子ハ請願ニ由リ華族ニ制シ爵ヲ授クルコトアルベシ。但シ現ニ宮號ヲ有スル者及ビ其ノ男子ニシテ宮號ヲ繼承スル者ハ此ノ限ニ在ラズ。

『恭デ按ズルニ、五世以下ノ皇親ニ姓ヲ賜ヒテ之ヲ臣籍ニ列スルコト古來其ノ例ナキニ非ラズ、原案ニ於テハ費ヲ節シ幹ヲ强クシ以テ皇室ノ尊嚴ヲ保持スル爲ニ此ノ制ヲ再興セントスト雖モ、勅旨ヲ以テ命令的ニ此ノ處分ヲ爲スハ皇室典範第三十一條ニ牴觸スルノ嫌アリ、今ニシテ典範原則ヲ紛更スルノ端緒ヲ開クハ將來ノ爲ニ憂慮スベキモノナキニ非ラズ。且ツ夫レ皇族タルノ身位ハ皇位繼承ノ權利ノ屬スル所ニシテ、命令的ニ之ヲ奪フハ事體容易ナリトセズ、之ニ反シ本人ノ請願ニ依リ其ノ身位ヲ棄ツルコトヲ許可スルハ典範ヲ紛更スルニ非ラズシテ唯ダ其ノ未ダ規定セザル所ヲ補遺スルニ止マリ、又既得權ヲ奪フノ觀ナシ因テ本條ノ如ク規定ス』

第二條　五世以下ノ皇族男子ハ勅許ヲ經テ華族ノ家督相續人トナリ、又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得。但シ第一條但書ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ。

『是レ原案第二條ナリ』

五世以下ノ皇族男子ノ華族ニ列シ又ハ華族ノ家ニ入ルヲ許シ並ニ財産上別ニ一家ヲ爲サシムルノ制

第三條　皇族男子ニシテ華族ニ列セラレタルトキハ特ニ家名ヲ賜フ。

『是レ原案第三條ナリ』

第四條　華族ニ列セラレ又ハ華族ノ家ニ入ル者ニシテ配偶者又ハ子孫アルトキハ該配偶者又ハ子孫ヲシテ其ノ家ニ入ラシムルモノトス。

『是レ原案第四條ナリ』

第五條　華族ニ列セラレ又ハ華族ノ家ニ入リタル者アルトキハ皇室典範第三十三條ニ準ジ、宮内大臣之ヲ公告ス。

前項ニ關スル記錄ハ圖書寮ニ於テ尚藏ス。

『是レ原案第五條ナリ』

第六條　五世以下ノ皇族ノ爲ニハ必要ノ場合ニ於テ財産ノ關係上別ニ一家ヲ爲シ、特別ノ經濟ヲ立テシムルコトアルベシ。但シ第一條但書ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ。

『舊來ノ制度ニ於テハ皇族全體ヲ一家族ト看做シ、家名ヲ用キズ財產ヲ分タザルヲ原則トシ、各皇族ノ費用ハ皇室經費ヲ以テ之ヲ支辨セリ。而シテ原案ハ皇室ノ費用ヲ節スルノ目的上ヨリ、五世以下ノ皇族ヲ華族ニ列スルノ主義ヲ取リタリト雖モ、本修正案ニ於テ命令的ニ此ノ處分ヲ爲スコトヲ不可トシ、唯ダ之ヲ本人ノ請願アル場合ニ限リタル以上ハ、別ニ皇室ノ經費ヲ節減スル策ヲ講ゼザルベカラズ。本條以下第九條ニ至ル間ニ規定スル所卽チ是ナリ。本條ニ於テハ先ヅ皇族全體ヲ一家トスルノ原則ヲ動カスコトナクシテ必要アル場合ニ或皇族ノ財產ヲ皇室一般ノ財產ヨリ分離スルノ原則ヲ設定ス。

現ニ宮號ヲ有スル皇族ニシテ現ニ事實上一己ノ私產ヲ所有スル者多ク、此等ハ理論上ヨリスレバ皇室ノ財產アリト雖モ、實際上皇室財產トシテ之ヲ處分スルハ難キノミナラズ、之ヲ私產トシテ子孫ニ傳フルコトヲ許スハ、一部皇族ノ財政上ノ獨立ヲ奬勵スルモノニシテ、皇室ノ經濟ヲ確固ニスルノ道ニ合ヘリ』

第七條　皇玄孫ノ男子ニハ世襲財產ヲ創設セシムル爲特ニ財產ヲ賜フコトアルベシ。

五世以下皇族世襲財產ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム。

『是レ必ズシモ華族ニ列セシメズシテ皇室ノ經費ヲ節減スルノ主義ニ依リ、原案第六條五世以下ノ皇族男子ノ華族ニ列シ又ハ華族ノ家ニ入ルヲ許シ並ニ財產上別ニ一家ヲ爲サシムルノ制

ヲ修正シタルモノナリ。卽チ五世以下ノ皇族ニハ廩俸ヲ給セズシテ別ニ經濟ヲ立テシメムガ爲ニ、皇玄孫ノ子ニ特ニ財產ヲ給ヒ、其ノ子孫ノ爲ニ世襲財產ヲ創設セシムルモノナリ。而シテ旣ニ世襲財產ト言ヘバ別ニ制度ヲ設ケテ普通民法ノ外ニ立ツ所以ヲ明カニスルノ要アリ』

第八條　五世以下ノ皇族ノ爲ニ勅旨ヲ以テ財產管理人ヲ任命セラルルコトアルベシ。

皇族財產管理人ノ職務權限ハ別ニ之ヲ定ム。

『枝葉皇族ト雖モ財政紊ルヽトキハ帝室ノ尊嚴ヲ損フガ故ニ、場合ニ依リ財產管理人ヲ任命シテ維持ノ方法ヲ立テシメ、普通民法以外ニ於テ其ノ職務權限ヲ定ムルノ要アリ』

第九條　財產ノ關係上別ニ一家ヲ爲セル五世以下皇族ノ債權債務ハ帝室會計ト相關スルコトナシ、其ノ財產ハ皇室典範皇族世襲財產規則及ビ皇族財產管理人規則ニ特例ヲ設ケタル場合ノ外一般民法ニ依リ處分スベキモノトス。

『五世以下ノ皇族ヲシテ別途ノ經濟ヲ立テシメントスルトキハ、自然民間ノ經濟事原ニ對スル關係頻繁ナルニ至ルベキヲ以テ、特別ノ理由アル場合ノ外ハ民法ヲ適用シテ其ノ交涉ヲ平易ニシ並ニ其ノ係累ヲ帝室財政ニ及ボサシメザルヲ要ス』

第十條　皇族ノ一旦臣籍ニ入リタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ズ。

『原案第七條ハ皇族男子ニ限リ一旦臣籍ニ降リタル後皇族ニ復歸スルノ途ヲ塞ギ、皇族女子ニ此ノ制ヲ適用セズ、其ノ理由トスル所ハ、男子ハ獨立シテ一家ヲ爲スコトヲ得ルモ、女子ニハ此ノ道ナキニ在ルモノヽ如シ。然リト雖モ皇族ニ復歸スルコトヲ得ト否トハ關係重大ノ事ニシテ、男女ノ間ニ其ノ權利ヲ異ニスベキ理由ヲ見ズ。故ニ本修正案ニ於テハ男女トモニ復歸ヲ許サザルノ主義ヲ取レリ』

第十一條　五世以下ノ皇族並ニ現ニ宮號ヲ有スル親王ノ五世以下ノ子孫及ビ現ニ宮號ヲ有スル諸王ノ待遇法ハ別ニ之ヲ定ム。

『本條ハ五世以下ノ皇族ヲ臣籍ニ降スコトナクシテ皇室ノ經費ヲ節減スルノ一策トシテ皇族ニ二ノ階段ヲ設ケ、四世以上ヲ第一級トシ、五世以下ヲ第二級トシテ其ノ間ニ儀禮待遇ノ厚薄ヲ異ニスルノ原則ヲ設定スルモノナリ』

五世以下ノ皇族男子ノ華族ニ列シ又ハ華族ノ家ニ入ルヲ許シ並ニ財產上別ニ一家ヲ爲サシムルノ制

第十二條　皇族男子若シ臣籍ニ在ル女子ノ產ミタル子ヲ認知セントスルトキハ勅許ヲ請フ。

前項ノ認知ヲ勅許セラレタルトキハ宮内大臣皇室典範第三十三條ニ依リ出生ヲ公告スルノ外民法上ノ手續ヲ要セズ。

『恭デ按ズルニ、皇位繼承ノ權利ヲ庶子ニ及ボスハ皇室典範ノ原則ナリ。然リト雖モ皇族男子ノ私生子ハ始ヨリ庶子ナルニ非ラズ、認知ヲ經テ始メテ庶子ト爲ルモノトス。故ニ天皇ノ皇族ヲ監督スル權利ヲ以テ認知ヲ許否シ給ヘルハ敢テ典範ノ原則ヲ動カスニ非ラズ、而シテ一定ノ場合ニ勅許ヲ拒否シ給ヘルハ皇室ノ出費ヲ未然ニ減少スルノ一法タルベシ。又經濟上ノ理由以外ニ於テ庶子ノ制ヲ盛ニスルコトヲ望マザル所以ノモノハ茲ニ言述スルノ要ナシ』

第十三條　本制ハ皇室典範ヲ增補スルモノニシテ皇室典範ト同一ノ效力ヲ有ス。

『本修正案ニ於テハ五世以下ノ皇族ノ爲ニ財政上別ニ一家ヲ爲サシムルノ制ヲ設ケ、又其ノ債權債務及ビ私生兒ニ關シ民法以外ニ特例ヲ設ケタリ。而モ本制ハ法律トシテ發布スベキモノニ非ラズ。故ニ民法ヲ打消スノ效力ナシ。然レドモ先ヅ皇室典範ヲ以テ帝國憲法ト對等ノ效力ヲ有スルモノトスル大體ノ方針ヲ確定セラルヽトキハ、本制ヲ以テ典範ノ增補トシ、以テ民法ヲ凌駕スルノ效力ヲ有セシムルノ途ヲ取レリ』

五世以下ノ皇族男子ノ華族ニ列シ又ハ華族ノ家ニ入ルヲ許シ並ニ財產上別ニ一家ヲ爲サシムルノ制

大祀令

第一條　大嘗祭ハ天皇卽位ノ禮ヲ行フ年又ハ其ノ翌年十一月十七日ニ於テ之ヲ行フ。但シ重大ノ事故アルトキハ其ノ年期ヲ延ブルコトヲ得。

『恭テ按ズルニ、上古ハ大嘗、新嘗兩事ニ非ラズ、天武天皇以後卽位ノ初メニ之ヲ行フヲ大嘗ト謂ヒ、每年之ヲ行フヲ新嘗ト謂フ。諸祭ノ中、大祀ト稱スル者ハ唯ダ大嘗アルノミ。神武天皇卽位元年以來歷朝相因リ每世一度擧行ノ大典ト爲ル。古來大嘗ヲ行フハ十一月丁卯ノ日ヲ以テシ、三卯アルトキハ中卯ノ日ヲ以テス。今ヤ太陰曆ヲ廢シ復タ卯日ヲ用フルノ例ヲ沿フコトヲ得ズ、本條ニ十一月十七日ト規定セシハ明治四年大嘗祭ノ芳躅ヲ追フニ在リ、而シテ貞觀ノ朝ニ新帝受禪シ、卽位ノ禮ヲ行フコト七月以前ニ在テハ其年ニ大嘗ヲ行ヒ、八月以後ニ在ラバ翌年大嘗ヲ行フノ制ヲ定ム。故ニ新帝踐祚シ諒闇終ルノ後卽位ノ禮ヲ行フ時ニ於テモ大祇此制ニ從フ。又事故アリテ卽位ノ禮ヲ行フ後數年ヲ經テ始メテ之ヲ行フコト有リ、明治四年ノ如キ卽チ其ノ例ノ一

ナリ、茲ニ古今ヲ斟酌シ本條ヲ規定ス。

第二條　大嘗祭ヲ行フノ年期定マリタルトキハ內閣總理大臣之ヲ公告シ、其ノ儀式ニ關スル事項ハ宮內大臣之ヲ公告ス。

『恭テ按ズルニ、大嘗ト卽位ハ離ル可カラザル至大ノ禮典ナルヲ以テ、其ノ年期ヲ定ムルトキハ國務大臣宜シク之ヲ臣民ニ告示スベシ。其儀式ニ關スル事項ヲ告示スルハ固ヨリ宮內大臣ノ職掌ナリ』

第三條　大嘗祭ヲ行フノ年期定マリタルトキハ奉幣使ヲ神宮、神武天皇山陵並ニ先帝山陵ニ發遣シテ本年大嘗祭ヲ行フ由ヲ奉告セシム。

『恭テ按ズルニ、大嘗ヲ行フノ期定マルトキハ奉幣使ヲ神宮ニ遣シテ之ヲ奉告ス。卽チ古來ノ成典ニシテ之ヲ由奉幣ト謂フ。又明治四年ニハ先帝山陵ニ之ヲ奉告ス。今マ此ニ遵由シテ本條ヲ規定ス。特ニ神武山陵ヲ揭グルハ禮ニ於テ固ヨリ然ラス可キニ由ル』

第四條　悠紀、主基ノ齋國及ビ齋郡ハ京都以東以南ヲ悠紀ノ國郡トシ、京都以西以北ヲ主基ノ

國郡トシ之ヲト定ス。

國郡ト定ヲ行フノ期ハ大嘗祭ヲ行フ年ノ五月トス。

『恭テ按ズルニ、大嘗ニハ悠紀、主基ノ國郡ヲト定スルノ儀アリ、蓋シ悠紀トハ齋戒潔清ノ意ニシテ、主基トハ次ノ意其ノ祭儀悠紀ニ次ギ之ヲ行フヲ以テナリ。上古悠紀、主基ノ齋國ハ時ニ臨ミ之ヲ撰拜ス。（元明ノ朝遠江但馬、平城ノ朝伊勢備前、嵯峨ノ朝參河美作、文德ノ朝伊勢播磨、陽成ノ朝美濃備中、冷泉ノ朝近江播磨ノ如キ是ナリ）中古以來ハ近江ヲ以テ悠紀ノ齋國ト定メ、丹波備中ヲ以テ一世毎ニ更ル々々主基ノ齋國ト定ム。而シテ此兩齋國ニ於テ齋郡ヲト定ス。明治四年ノ大嘗ハ東京ニ於テ之ヲ行フヲ以テ甲斐ヲ悠紀ノ齋國、安房ヲ主基ノ齋國ニ撰定シテ其ノ齋郡ヲト定シタリ。此國郡ト定ハ二月ヨリ九月ニ至ルノ間何レノ月ニ於テモ之ヲ行フ。明治四年ニハ五月ヲ以テ茲ニ古今ヲ斟酌シ本條ヲ規定ス』

第五條　悠紀、主基ノ國郡ヲト定シタルトキハ、宮內大臣ハ地方長官ニ其ノ齋田ニ充テタル所有者ニ對シ其ノ年ノ新穀ヲ供納セシムルノ手續ヲ爲スコトヲ命ズ。

『恭テ按ズルニ、往古國郡ヲト定スルトキハ太政官符ヲ以テ悠紀、主基兩齋國ノ國司ニ大嘗ニ供奉ス可キコトヲ命ジ、新穀及ビ種々ノ物產ヲ貢納セシム。而シテ兩齋國當年ノ租庸ヲ免賜ス、近世ハ齋田ノ收穫ヲ正租トシテ之ヲ貢納セシム、本條ハ現今ノ制度ニ由リ之ヲ規定ス』

第六條　稻實成熟ノ期ニ至ルトキハ拔穗使ヲ悠紀、主基ノ齋國ニ發遣ス。

『恭テ按ズルニ、古例大嘗ヲ行フノ年八月九月若クハ十月ニ至ルトキハ拔穗使ヲ悠紀、主基ノ齋國ニ遣シ、國司ト共ニ齋田ニ臨ミ其ノ稻ヲ護ラシメ之ヲ京師ノ齋場ニ運輸ス、明治四年ニ於テモ亦然リ、今マ此ニ據ル』

第七條　每年ノ新嘗祭ニ各府縣ノ臣民ヨリ獻納スル所ノ新穀ハ大嘗祭ニ於テモ仍ホ其ノ請ヲ聽許シ悠紀、主基齋國ノ新穀ト共ニ神饌ノ用ニ充テシム。

『恭テ按ズルニ、每年新嘗祭ニ際シ各府縣ノ臣民新穀ヲ獻納スルハ明治廿五年ニ昉マル、故ニ大嘗祭ニ於テモ仍ホ其獻納ヲ聽許シ悠紀、主基兩殿ノ神饌ノ用ニ加ヘシム』

第八條　大嘗宮ハ京都御苑內ニ於テ之ヲ建設ス。

『恭テ按ズルニ、往古大嘗宮ハ大極殿龍尾道前ニ建設シ、近世ハ之ヲ紫震殿ノ前座ニ建設ス。明治四年東京宮城吹上御苑内ニ之ヲ建設ス、茲ニ古今ヲ斟酌シ本條ヲ規定ス。

第九條　大嘗祭ヲ行フ期日ニ先チ天皇皇后ト共ニ京都ノ皇宮ニ移御ス。

『恭テ按ズルニ、大嘗祭ヲ京都ニ行フノ明文ハ掲ゲテ皇室典範第十一條ニ在リ、故ニ其期日ニ先チ天皇皇后ト共ニ京都ノ皇宮ニ移御スルナリ』

第十條　大嘗祭ヲ行フ期日ニ先チ大神寶使ヲ神宮皇靈殿神殿及ビ五畿七道ノ諸社ニ遣シ、神寶幣帛ヲ供シテ寶祚長久國家安全ヲ禱ラシム、之ヲ大神寶使ト謂フ。又一代一度大神寶ト稱ス、大神寶使發遣ハ或ハ大嘗ノ前ニ在リ、或ハ大嘗ノ後ニ在リ、其期一定セズ、又大嘗奉幣使ヲ神宮及ビ諸社ニ發遣スルコト有リ、之ヲ大奉幣使ト謂フ、後世此兩典廢絶ス、明治四年ニハ大奉幣使ノ典ヲ興復ス、茲ニ古今ヲ斟酌シ本條ヲ規定ス』

第十一條　大嘗祭ヲ行フ前三日御禊及ビ大祓ヲ行フ。

『恭テ按ズルニ、大寶ノ令ニ「天皇卽位總祭二天神地祇一散齋一月致齋三日」ト有リ、歷世此制ニ從フ、往古ハ十月晦日天皇葛野川松崎川又加茂川ニ幸シ御禊ヲ行フ、之ヲ御禊行幸ト謂フ、其翌日卽チ十一月一日ニ於テ齋火御飯ヲ供ス、而シテ御禊ノ當日朱雀門ニ於テ大祓ヲ行フ、又九月晦日大嘗ニ奉仕スル諸司ハ紙屋川ニ於テ祓除ス、之ヲ荒見川祓ト謂フ。近世ハ天皇淸涼殿ニ御シテ御禊ヲ行ヒ行幸ノ儀アルコト無シ、諸司ノ荒見川祓ハ仍ホ之ヲ行ヘリ、明治四年ニハ散齋一月ノ制ヲ取ラズシテ致齋三日ノ制ノミヲ取リ、大嘗ノ前三日宮中ニ於テ節折及ビ大祓ヲ行フ、今マ此ニ據ル』

第十二條　大嘗祭ハ別ニ定メタル式ニ依リ之ヲ行フ。

『恭テ按ズルニ、大嘗ハ天皇卽位ノ初ニ於テ皇祖天照大神ガ億兆ノ生命ヲ保ツ爲ニ齋庭ノ神稻ヲ授ケ給ヒシ神恩ヲ謝セラルヽノ大禮ニシテ、歷朝莊重嚴肅ニ其典ヲ擧行ス。世運ニ隆替アリ、儀式ニ增損アリ、然レドモ悠紀、主基兩殿ニ於ケル祭儀ハ故事ヲ確守シ、未ダ曾テ之ヲ變革セズ、明治四年ノ大嘗ニ在リテモ亦然リ、茲ニ古今ヲ斟酌シ別式ヲ定ム』

第十三條　大嘗祭ノ儀訖リタルトキハ節會ヲ行フ。

『恭テ按ズルニ、大嘗ナル者ハ卯辰巳三日ニ亙リ之ヲ行フモノニシテ、祭祀ヲ主トシテ之ヲ稱セバ大嘗祭ト謂ヒ節會ヲ繫ケテ之ヲ稱セバ大嘗會ト謂フ。卯日ハ悠紀、主基兩殿ニ於テ天皇親ラ皇祖及ビ天神地祇ヲ饗祀シ、辰巳兩日ハ豐樂院ノ悠紀、主基兩帳ニ御シテ新穀ヲ聞食シ、之ヲ王卿百僚ニ賜フ、之ヲ悠紀節會、主基節會ト謂フ。且ツ巳日ニハ其夕清暑堂ニ於テ神宴及ビ御遊アリ、此三日ノ儀典ヲ行ヒ訖リテ午日ニ至リ又群卿ヲ宴ス、之ヲ豐明節會ト謂フ。蓋シ豐明節會ハ大嘗擧行シ訖リタルヲ慶スルニ外ナラズ、明治四年ニハ辰日ニ於テ親王大臣及ビ在京奏任官以上ヲ宴シ、巳日ニ於テ有位華族ヲ宴シ、辰日ノ夕ニ外國公使ヲ饗ス、而シテ在東京ノ判任官ハ各官廳ニ於テ饗膳ヲ賜ヒ、又府縣判任官以上神宮及ビ官國幣社ノ神宮ハ各其ノ官廳ニ於テ之ヲ賜フ、之ヲ稱シテ豐明節會ト曰ヘリ、茲ニ古今ヲ斟酌シテ本條ヲ規定ス』

立儲令

第一條　皇太子ヲ立ツルトキハ立太子ノ禮ヲ行フ、其期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

『恭テ按ズルニ、近古ノ例ハ關白勅旨ヲ奉ジ議奏、傳奏兩役ニ命ジテ親王家、攝家及ビ清華ノ大臣ヲ召サシメ、聖上便殿ニ御シテ之ヲ引見シ、關白來何月ヲ以テ立太子ノ禮ヲ行フ事ヲ傳宣ス、儀訖リテ其他ノ諸臣ニ普告ス、是日曲宴アリ、今マ此ヲ參酌ス』

第二條　立太子ノ禮ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス。

『恭テ按ズルニ、近古ノ例立太子ノ禮ヲ行フノ期日ヲ勅定スルトキハ關白之ヲ議奏、傳奏兩役ニ命ジテ諸臣ニ普告セシメ、有司ヲシテ調度ヲ準備セシム、今マ此ヲ參酌ス、蓋シ臣民一般ヲシテ知悉セシムルハ大禮タルヲ以テナリ』

第三條　立太子ノ禮ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ、奉幣使ヲ神宮、神武天皇山陵並

ニ先帝先后ノ山陵ニ發遣ス。

『恭テ按ズルニ、皇祖皇宗及ビ天神地祇ニ虔告スルハ其禮ヲ愼重ニスルナリ、古今ノ例ヲ稽ヘ、彼此ノ禮ヲ酌ミ、本條ヲ制定ス』

第四條　立太子ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ之ヲ行フ。

『恭テ按ズルニ、立太子ノ禮ニハ冊命使アリ、御劍使アリ、御膳使アリ、大殿祭アリ、又坊官宣下ノ式アリ、古今ヲ參酌シテ儀注ヲ制定シ以テ附式ト爲ス』

第五條　立太子ノ詔書ハ當日之ヲ公布ス。

『恭テ按ズルニ、立太子詔書宣布ノ事史ニ見ユルハ繼體天皇紀ヲ以テ始メト爲ス、中古以來儀文大ニ備ハリ之ヲ宣布スルハ必ラズ其禮ヲ行フノ當日ニ在リ、今マ之ニ據ル』

第六條　立太子ノ禮訖リタルトキハ皇太子ハ賢所皇靈殿神殿ニ謁ス。

『恭テ按ズルニ、本條ハ明治二十二年十一月三日立太子ノ成例ニ據ル』

第七條　立太子ノ禮訖リタルトキハ皇太子ハ天皇、皇后、太皇太后、皇太后ニ朝見ス。

『恭テ按ズルニ、皇太子拜覲ノ儀ヲ行フハ中古以來ノ成例ナリ、今マ此ニ據ル』

第八條　立太子ノ禮訖リタルトキハ饗宴ヲ賜フ。

『恭テ按ズルニ、立太子節會ヲ行フハ中古以來ノ成例ナリ、今亦此ニ據ル、蓋シ賜宴ノ宮名ヲ豫定セザルハ其時ノ宜ニ任カスニ在リ』

第九條　皇太孫ヲ立ツルトキハ前各條ノ規定ヲ準用ス。

皇統譜令

明治三十六年六月二十六日配付

第一章　總則

第一條　皇統譜ニハ皇統ニ關スル一切ノ事項ヲ登錄ス。

第二條　皇統譜ハ分チテ大統譜、皇親譜、皇系譜ノ三種トシ、各々正副二本ヲ備フ。

第三條　大統譜ニハ天皇皇后ニ關スル事項ヲ登錄ス。

第四條　皇親譜ニハ親王、王、王妃、女王ニ關スル事項ヲ登錄ス。

第五條　皇親譜中天皇ノ直系卑屬ニ關スル事項ヲ登錄スル簿冊ハ天皇一代毎ニ之ヲ調製スベシ。

第六條　皇系譜ニハ皇室ノ系圖ヲ記載シ分チテ大統系圖、皇親系圖ノ二種トス。

第七條　大統系圖ニハ皇祖以來左ノ事項ヲ登錄ス。

天皇皇后ニ關スル事項。

皇太子、皇太子妃、皇子、皇子妃、皇女ニ關スル事項。

皇太子又ハ皇太孫ノ皇子、皇子妃、皇女ニ關スル事項。

皇嗣タルベキ皇孫又ハ皇曾孫ノ王子、王子妃、王女ニ關スル事項。

第八條　皇親系圖ニハ所出天皇ノ區別ニ從ヒ前條ノ外一世親王ニ王子又ハ王女アルトキ一世親王及ビ一世親王妃以下其ノ直系卑屬タル親王、親王妃、內親王、王、王妃、女王ニ關スル事項ヲ登錄ス。

第九條　皇系譜ニ於テ系統ノ關係ヲ表ハスニハ朱線ヲ以テス。

第十條　皇統譜ハ表紙ノ裏面ニ御璽ヲ鈐シ枚數及ビ年月日ヲ記シ宮內大臣及ビ圖書頭之ニ署名シ官印ヲ以テ綴目ニ契印ヲ爲スベシ、皇系譜目錄モ亦同ジ。

第二章　登錄手續

第十一條　皇統譜ノ登錄ハ公布公告又ハ宮內大臣ノ通牒ニ依リ圖書頭之ヲ行フ。

第十二條　圖書頭皇統譜ノ登錄ヲ行フトキハ宮內大臣之ニ立會フベシ。

第十三條　圖書頭皇統譜ノ登錄ヲ行フトキハ同時ニ正副二本ニ登錄スベシ。

第十四條　圖書頭皇統譜ノ登錄ヲ行フトキハ事項毎ニ其ノ所由及ビ登錄ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名スベシ。但シ皇系譜ノ登錄ヲ行フトキハ其ノ事項ノ所由及ビ登錄ノ年月日ハ別ニ皇系譜

登錄目錄ヲ調製シテ之ニ記載シ署名スルモノトス、第十五條第二項第十七條ノ登錄ヲ行フトキ亦同ジ。

第十五條　皇統譜ノ登錄ハ字畫ヲ明瞭ニシ數字ニハ壹貳參拾ノ字ヲ用フベシ。

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ズ、若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ該欄ニ附記シ圖書頭之ニ署名スベシ、其ノ訂正又ハ削除ニ係ル文字ハ尙明カニ讀ミ得ベキ爲メ字體ヲ存スベシ。

第十六條　皇統譜ノ登錄ニ錯誤ノ疑ヒアルトキハ皇族會議ニ諮詢シ之ヲ勅定ス。

第十七條　前條ノ勅定又ハ裁判ノ確定ニ依リ皇統譜ノ登錄ヲ取消シ又ハ變更スベキ場合ニ於テ其ノ登錄ヲ行フトキハ取消又ハ變更ノ事由及ビ年月日ヲ記載スベシ。

前項ノ登錄ヲ行フトキハ前ノ登錄ヲ朱抹スベシ。

第三章　大統譜登錄

第十八條　天皇ノ欄ニハ左ノ事項ヲ登錄ス。

御　名
御　父
御　母
誕生ノ年月日時
命名ノ年月日
宮號及ビ宮號ヲ付セラレタル年月日
皇太子又ハ皇太孫ニ立チタル年月日
大婚又ハ成婚ノ年月日及ビ皇后ノ御名又ハ妃ノ名
踐祚ノ年月日
元號及ビ改元ノ年月日
卽位禮ノ年月日
大嘗祭ノ年月日
崩御ノ年月日時
追號及ビ追號ヲ定メラレタル年月日
大葬ノ年月日及ビ山陵

第十九條　皇后ノ欄ニハ左ノ事項ヲ登錄ス。

御　名
御　父

御　母
誕生ノ年月日時
命名ノ年月日
宮號及ビ宮號ヲ付セラレタル年月日
大婚又ハ成婚ノ年月日
親王妃又ハ王妃ヨリ皇后ト爲リタルトキハ其ノ年月日
崩御ノ年月日時
追號及ビ追號ヲ定メラレタル年月日
大葬ノ年月日及ビ山陵

第二十條　攝政ヲ置キ又ハ攝政ノ更迭アリタルトキハ其ノ年月日及ビ攝政ノ名ヲ天皇ノ欄ニ登錄スベシ。

第二十一條　前條ノ規定ハ之ヲ太傅ニ準用ス。

第二十二條　皇后崩御ノトキハ其ノ年月日ヲ天皇ノ欄ニ登錄スベシ。

第二十三條　皇后皇太后ト爲リ又ハ皇太后太皇太后ト爲リタルトキハ其ノ年月日ヲ皇后ノ欄

ニ登錄スベシ。

第二十四條　皇后皇太后ト爲リタル後ニ生ジタル事項ハ仍テ該皇后ノ欄ニ登錄スベシ。

第二十五條　皇后、皇太后、太皇太后攝政ニ任ジ又ハ攝政ヲ罷メタルトキハ其ノ年月日ヲ皇后ノ欄ニ登錄スベシ。

第二十六條　親王、王大統ヲ繼ギタルトキハ皇親譜ヨリ大統譜ニ移記スベシ、妃アルトキハ妃モ亦同ジ。

第二十七條　內親王、女王皇后ニ立チタルトキハ皇親譜ヨリ大統譜ニ移記スベシ。

第四章　皇親譜登錄

第二十八條　親王、親王妃、內親王、王、王妃、女王ノ欄ニハ左ノ事項ヲ登錄ス。

名
父
母
誕生ノ年月日時
命名ノ年月日
宮號及ビ宮號ヲ付セラレタル年月日

婚嫁ノ年月日及ビ配偶者
薨去ノ年月日時
葬送ノ年月日及ビ墓所

第二十九條　親王皇太子又ハ皇太孫ニ立チタルトキハ其ノ年月日ヲ該親王ノ欄ニ登錄スベシ。

第三十條　親王、王大統ヲ繼ギタルトキハ其ノ月日及ビ大統譜ニ移記スル旨ヲ該親王、王ノ欄ニ登錄スベシ、妃アルトキハ妃モ亦同ジ。

第三十一條　親王、王大統ヲ繼ギタル場合ニ於テ直系卑屬アルトキハ天皇ノ直系卑屬ニ關スル事項ヲ登錄スル簿冊ニ移記シ其ノ旨ヲ該直系卑屬ノ欄ニ登錄スベシ、妃アルトキハ妃モ亦同ジ。

前項ノ場合ニ於テ直系卑屬王、女王タリシトキハ移記ノ際親王、內親王ノ號ニ改ムベシ。

第三十二條　天皇支系ヨリ入ツテ大統ヲ承ケタル場合ニ於テ其ノ兄弟姉妹ノ王、女王タル者ニ親王、內親王ノ號ヲ宣賜セラレタルトキハ其ノ年月日ヲ該王、女王ノ欄ニ登錄スベシ。

第三十三條　皇室典範第九條ニ依リ皇位繼承ノ順序ヲ換ヘタルトキハ其ノ年月日ヲ皇嗣タリシ親王、王ノ欄ニ登錄スベシ。

第三十四條　內親王、女王皇后ニ立チタルトキハ大統譜ニ移記スル旨ヲ該內親王、女王ノ欄ニ

登錄スベシ。

第三十五條　內親王、女王ニシテ親王、王ニ嫁シタルトキハ親王妃、王妃ノ欄ニ移記シ其ノ旨ヲ該內親王、女王ノ欄ニ登錄スベシ。

第三十六條　親王妃、王妃離婚ノトキハ其ノ年月日ヲ親王及ビ妃ノ欄ニ登錄シ其ノ內親王、女王ノ欄ニハ內親王、女王ノ欄ニ移ス旨該內親王、女王ノ欄ニハ離婚ノ年月日及ビ復歸ノ旨ヲ登錄スベシ。

妃臣籍ヨリ出デタルモノナルトキハ除籍ノ旨ヲ妃ノ欄ニ朱記スベシ。

第三十七條　內親王、女王臣籍ニ嫁シタルトキハ除籍ノ旨ヲ該內親王、女王ノ欄ニ朱記スベシ。

第三十八條　皇族臣籍ニ降リタルトキハ其ノ年月日ヲ該皇族ノ欄ニ登錄シ除籍ノ旨ヲ朱記スベシ寡居ノ妃臣籍ニ復歸シタル時亦同ジ。

第三十九條　內親王、女王ニシテ臣籍ニ嫁シタル者離婚ノトキハ其ノ年月日及ビ復籍ノ旨ヲ該內親王、女王ノ欄ニ登錄スベシ。

第四十條　配偶者アル皇族薨去シタルトキハ其ノ年月日ヲ該配偶者ノ欄ニ登記スベシ。

第四十一條　皇族攝政ニ任ジ又ハ攝政ヲ罷メタルトキハ其ノ年月日ヲ該皇族ノ欄ニ登錄スベシ。

第四十二條　皇族後見ニ付セラレタルトキハ其ノ年月日及ビ後見人ノ名ヲ該皇族ノ欄ニ登錄ス

ベシ、後見人ノ更迭アリタルトキ亦同ジ。

後見已ミタルトキハ其ノ年月日ヲ登錄スベシ。

第四十三條　皇族懲戒ニ依リ其ノ特權ヲ停止又ハ剝奪セラレタルトキハ其ノ懲戒ノ要旨及ビ年月日ヲ該皇族ノ欄ニ登錄スベシ、其ノ解除セラレタルトキ亦之ニ準ズ。

第四十四條　皇族禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ年月日及ビ管財者ノ氏名ヲ該皇族ノ欄ニ登錄スベシ、管財者ノ更迭アリタルトキ亦同ジ、禁治產ノ解除アリタルトキハ其ノ年月日ヲ登錄スベシ。

第五章　大統系圖及ビ皇親系圖登錄

第四十五條　大統系圖ニハ大統ノ順序ニ從ヒ天皇ノ追號及ビ御名ヲ掲ゲ、第十八條第四項乃至第十項第十二項第十四項乃至第十六項ニ列記セル事項ヲ登錄ス、但シ第七條第三項第四項第五項ニ關スル事項ハ第五十條第五十一條ニ準ジ之ヲ登錄ス。

第四十六條　天皇ノ部ニハ第十九條ニ列記セル皇后ニ關スル事項ヲ登錄ス。

第四十七條　代數及ビ世數ハ天皇ノ右側ニ附記スベシ、第四十九條ノ場合ニ於テハ所出男系ノ直系尊屬ノ右側ニ世數ヲ附記スベシ。

第四十八條　皇太子、皇太孫踐祚セラレタルトキハ其ノ親王ノ右側ニ天皇御名ヲ登錄シ親王名ヲ朱抹シ、踐祚セラレタル後ニ生ジタル事項ハ天皇ノ例ニ依リ登錄ス、其ノ妃アリテ皇后ト爲リタルトキハ之ニ準ズ。

皇嗣タル皇孫、皇曾孫踐祚セラレタルトキモ亦前項ニ準ズ。

第四十九條　皇孫、皇曾孫、皇玄孫大統ヲ繼ギタル場合又ハ支系ヨリ入リ大統ヲ承ケタル場合ニ於テハ該天皇ノ所出男系ノ直系尊屬ヲ登錄スベシ。

第五十條　皇親系圖ニハ一世親王ノ右側ニ所出天皇ノ追號及ビ御名ヲ掲ゲ一世親王以下世系ノ順序ニ從ヒ親王、內親王、王、女王ノ名ヲ掲ゲ、第二十八條第四項乃至第十項ニ列記セル事項ヲ登錄ス。

第五十一條　親王、王ノ部ニハ前條ノ規定ニ準ジ親王妃、王妃ニ關スル事項ヲ登錄ス。但シ親王妃又ハ王妃ノ皇后ト爲リタルトキハ第十九條第九項ニ準ジ登錄スベシ。

第五十二條　皇親系圖ハ所出天皇ヨリノ世數ヲ其ノ親王、王ノ左側ニ附記スベシ。

第五十三條　親王、王支系ヨリ入リテ大統ヲ承ケタルトキハ其ノ年月日大統系圖ニ移記スル旨ヲ該親王、王ノ部ニ登錄シ其ノ後ニ係ル事項ハ大統系圖ニ登錄スベシ、妃及ビ直系卑屬ニ關スル事項モ亦之ニ準ズ。

第五十四條　內親王、女王皇后ニ立チタルトキハ大婚ノ年月日ヲ天皇及ビ該內親王、女王ノ部

ニ登錄シ且ツ大統系圖ニ移記スル旨ヲ該内親王、女王ノ部ニ登錄シ其ノ後ニ係ル事項ハ大統系圖ニ登錄ス、其ノ親王、王ノ妃ト爲リタルトキ亦之ニ準ズ。

第五十五條　第三十一條第二項第三十二條第三十三條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第五十八條ニ關スル事項ハ各本條ニ準ジ大統系圖又ハ皇親系圖ニ之ヲ登錄スベシ。

第五十六條　前代天皇、皇后及ビ前代親王、親王妃、内親王、王、王妃、女王ニ關スル事項ニシテ第四十五條第四十六條第五十條第五十一條ニ照シ加除スルヲ要スル事項アルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ定ム。

第六章　附　則

第五十七條　大統譜及ビ皇親譜ノ登錄ハ現在ノ天皇、皇后及ビ皇族ヨリ之ヲ行フ。

第五十八條　現在ノ皇族ニシテ皇養子皇嫡子若クハ他ノ繼嗣ニ定メラレ又ハ親王ノ號ヲ宣賜セラレタル者ハ其ノ年月日ヲ皇親譜中該皇族ノ欄ニ登錄スベシ。

第五十九條　現在ノ天皇、皇后及ビ皇族ニ關スル事項ニシテ既往ニ屬スルモノハ圖書頭、宮内大臣ノ通牒ニ依リ勅裁ヲ經テ之ヲ登錄ス。

大統譜

御璽

年月日

枚數何枚

宮内大臣（爵）氏名

圖書頭（爵）氏名

天皇　御名

御父　何天皇（皇太子）（皇太孫）何親王）（何親王）（何親王）

御母　何皇后（（何）皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名））

〔皇太子（皇太孫）何親王（何親王）（何王）妃 何内親王（何女王）
（何子）〕

御生母　（位爵）氏名女（位）（典侍）名

誕生　年月日午（前）（後）何時何分

命名　年月日

宮號　何宮

立太子（立太孫）　年月日　妃何内親王（何女王）（何子）
（成婚）

右皇親譜何天皇直系卑屬ノ部何親王（何王）ノ欄ヨリ移記ス

詐踐　年月日　圖書頭（爵）氏　名

改元　右年月日公布ニ依リ登錄ス

元號　年月日　、、、

即位禮　右年月日公布ニ依リ登錄ス　、、、（、）、

年月日　、、、

大嘗祭　右年月日公布ニ依リ登錄ス　、、、（、）、

年月日　、、、

攝政ヲ置ク　年月日皇太子（皇太孫）何親王（何親王）（何王）（皇后御名）（皇太后御名）（何内親王）（何女王）攝政ト爲ル　右年月日公布ニ依リ登錄ス　、、、（、）、

攝政ヲ更フ	年月日皇太子（皇太孫）何親王（何親王）（何王）（皇后御名）（皇太后御名）（何内親王）（何女王）攝政ニ更任ス
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
攝政已ム	年　月　日
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
太傅ヲ置ク	年月日何親王（何王）（位爵氏名）太傅ト爲ル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
太傅ヲ更フ	年月日何親王（何王）（位爵氏名）太傅ニ更任ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
太傅已ム	年　月　日

大婚	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	年月日皇后（何内親王）（何女王）（何子）
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
皇后崩御	年　月　日
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
崩御	年月日午（前）（後）何時何分
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
追號	何天皇　年　月　日
	右年月日公布ニ依リ登錄ス

大葬　年月日山陵何府（縣）郡（市）（町）村何々陵
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、

皇后　御名

御父　何天皇（何親王）（何王）（位爵氏名）
御母　何皇后（（何　皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名））
御生母　（何親王（何王）妃　何内親王（何女王）（何子））
（位爵氏名妻女）
誕生　年月日午（前）（後）何時何分
命名　年月日

宮號　何宮　年月日
（成婚）　年月日　皇太子（皇太孫）何親王（何親王）（何王）妃ト爲ル
右皇親譜天皇御名直系卑屬ノ部「又ハ」何天皇直系卑屬ノ部何親王
（何王）妃　何内親王（何女王）（何子）ノ欄ヨリ移記ス
皇后臣籍ヨリ出デタルトキハ宮號ヲ除キ右位爵氏名戸籍ノ謄本ヲ徵
シ之ヲ登錄スト記載ス
年月日　圖書頭（爵）氏　名

（皇后ト爲ル）
年月日
右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、（、）、

大婚
年月日
右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、（、）、

攝政ニ任ズ
年月日
、、、（、）、

崩御	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	、、、
攝政ヲ罷ム	年　月　日
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	、、、
天皇崩御	年　月　日
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、
皇太后ト爲ル	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	、、、
（太皇太后ト爲ル）	年　月　日
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	、、、
崩御	年月日午（前）（後）何時何分
	、、、（、）、
	、、、（、）、
	、、、（、）、
	、、、（、）、
	、、、（、）、
	、、、（、）、
	、

大葬	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、
追號	何皇后（何皇太后）（何太皇太后）年月日
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、
	年月日山陵何府（縣）郡（市）（町）村何々陵
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、
	、、、（、）、
	、

大統系圖

御璽　枚數何枚

年月日　宮內大臣（爵）氏　名

圖書頭（爵）氏　名

何代何世
何天皇御名

何代何世　御母皇后（（何）皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名））（何內親王）（何女王）
（何子）（御生母）（位爵）氏名女（位）（典侍）名
何天皇御名

年月日時　降誕
年月日　命名
年月日　號何宮
年月日　立皇太子（皇太孫）
〔年月日　成婚、妃何內親王（何女王）（何子）〕
年月日　踐祚
年月日　大婚皇后御名
年月日　卽位禮
年月日時　崩御
年月日　追號何天皇

年月日大葬山陵何々

皇后御名　御父　何天皇（何親王）（何王）（位爵氏名）
　　御母　何皇后（（何）皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名））
　　（何内親王）（何女王）（何子）、位爵氏名妻名）
　　〔御生母（位爵）氏名女（位）（典侍）名〕

年月日時誕生
年月日命名
（年月日號何宮）
〔年月日成婚　何親王（何王）妃ト爲ル〕
（年月日皇后ト爲ル）
年月日大婚
年月日皇太后ト爲ル
年月日太皇太后ト爲ル
年月日時崩御
年月日追號（何皇后）（何皇太后）（何太皇太后）

年月日大葬山陵何々

何親王　母　皇后（御名）〔生母（位爵）氏名女（位）（典侍）名〕

年月日誕生
年月日命名
年月日號何宮
年月日成婚、妃何内親王（何女王）（何子）
年月日立皇太子
（年月日皇位繼承ノ順序ヲ變更セラル）
（年月日離婚）
年月日時薨去
年月日葬送　墓所何々

何親王妃（名）　父　何天皇（何親王）（何王）（位爵氏名）
　　母　何皇后（（何）皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名）

（何內親王）（何女王）（何子）（位爵氏名妻名）
〜生母（位爵）氏名女（位）（典侍）名〜
年月日時誕生
年月日命名
（年月日號何宮）
年月日成婚
（年月日離婚ニ付何內親王（何女王）ノ部ニ移ス）
（年月日離婚除籍）
年月日時薨去
年月日葬送墓所何々

何親王

母皇后（御名）〜生母（位爵）氏名女（位）（典侍）名〜
年月日時誕生
年月日命名
年月日號何宮

年月日成婚妃何內親王（何女王）（何子）
（年月日立皇太子）
（年月日皇位繼承ノ順序ヲ變更セラル）
（年月日離婚）
年月日時薨去
年月日葬送墓所何々

何親王妃（名）

父何天皇（何親王）（何王）（位爵氏名）
母何皇后（（何）皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名））
（何內親王）（何女王）（何子）（位爵氏名妻名）
〜生母（位爵）氏名女（位）（典侍）名〜
年月日時誕生
年月日命名
（年月日號何宮）
年月日成婚
年月日離婚ニ付何內親王（何女王）ノ部ニ移ス

（年月日離婚除籍）

何親王母皇后（御名）〜〜生母（位爵）氏名女（位）（典侍）名〜〜

年月日時誕生
年月日命名
年月日號何宮
年月日薨去
年月日葬送　墓所何々

何內親王母皇后（御名）〜〜生母（位爵）氏名女（位）（典侍）名〜〜

年月日時誕生
年月日命名
年月日號何宮
〜〜年月日何親王（何王）ニ嫁シタルニ付何親王（何王）妃ノ部ニ移ス〜〜
（年月日離婚復歸）

（年月日位爵氏名ニ嫁シタルニ付除籍）
（年月日離婚復籍）
年月日時薨去
年月日葬送　墓所何々

何親王

母何內親王（何女王）（何子）〜〜生母（位爵）氏名女名〜〜

年月日時誕生
年月日號何宮
年月日成婚　妃何內親王（何女王）（何子）
（年月日立皇太孫）
（年月日皇位繼承ノ順序ヲ變更セラル）
（年月日離婚）
年月日時薨去
年月日葬送　墓所何々

何親王妃(名)　父　何天皇（何親王）（何王）（位爵氏名）
母　何皇后（（何）皇太后(御名)）（（何）太皇太后(御名)））
（何内親王）（何女王）（何子）（位爵氏名妻名）
〜生母　位爵）氏名女（位）（典侍）名〜
年月日時　誕生
年月日　命名
年月日　號何宮
年月日　成婚
（年月日　離婚ニ付何内親王（何女王）ノ部ニ移ス）
（年月日　離婚除籍）
年月日時　薨去
年月日　葬送　墓所何々

何内親王　母　何内王親（何女王）（何子）
〜生母（位爵）氏名女名〜
年月日時　誕生

年月日　命名
年月日　號何宮
（年月日　何親王（何王）ニ嫁シタルニ付何親王（何王）妃ノ部ニ移ス）
（年月日　離婚復歸）
（年月日　位爵氏名ニシ嫁タルニ付何親王（何王）妃ノ部ニ移ス）
（年月日　離婚復籍）
年月日時　薨去
年月日　葬送　墓所何々

何内親王　母　何内親王（何女王）（何子）
〜生母（位爵）氏名女名〜
年月日時　誕生
年月日　命名
年月日　號何宮
年月日時　薨去

年月日葬送墓所何々

何親王　母何内親王（何女王）（何子）
〔生母（位爵）氏名女名〕

年月日誕生
年月日命名
年月日號何宮
年月日薨去
年月日葬送墓所何々

何親王　母何内親王ニ同ジ

何親王　母何内親王（何女王）（何子）
〔生母（位爵）氏名女名〕

年月日誕生
年月日命名
年月日號何宮

年月日成婚　妃何内親王（何女王）（何子）
（年月日皇位繼承ノ順序ヲ變更セラル）

年月日薨去
年月日葬送墓所何々

何親王妃（名）　父何天皇（何親王）（何王）（位爵氏名）
母何皇后（（何）皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名））
（何内親王）（何女王）（何子）（位爵氏名妻名）
〔生母（位爵）氏名女（位）（典侍）名〕

年月日誕生
年月日命名
年月日號何宮
（年月日成婚）
年月日薨去
年月日葬送墓所何々

何内親王　母何親王ニ同ジ

何親王　父（何）天皇（御名）　母（何）皇后（御名）〔生母（位爵）氏名女（位）（典侍）名〕

第一世

年月日時誕生
年月日命名
年月日號何宮
年月日成婚　妃何內親王（何女王）（何子）
（年月日皇位繼承ノ順序ヲ變更セラル）
（年月日時離婚
（年月日時薨去
年月日葬送　墓所何々

何親王妃（名）　父　何天皇（何親王）（何王）（位爵氏名）
母　何皇后（（何）皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名））
（何內親王）（何女王）（何子）（位爵氏名妻女）
〔生母（位爵）氏名（位）（典侍）名〕

年月日時誕生
年月日命名
（年月日號何宮）
年月日成婚
（年月日離婚ニ付何內親王（何女王）ノ部ニ移ス）
（年月日離婚除籍）
年月日時薨去
年月日葬送　墓所何々

何親王　母　何內親王（何女王）（何子）〔生母（位爵）氏名女名〕

第二世

年月日時誕生
年月日命名
年月日號何宮
年月日成婚・妃何內親王（何女王）（何王）

（年月日大統ヲ繼承セラレタルニ付大統圖ニ移記ス）
（年月日皇位繼承ノ順序ヲ變更セラル）
（年月日離婚）
年月日薨去
年月日葬送墓所何々

何親王妃（名）　父（何）天皇（御名）（何親王）（何王）（位爵氏名）
母（何）皇后（御名）（何）皇太后（御名）（何）太皇太后（御名））
（何内親王）（何女王）（何子　（位爵氏名妻名）
～生母　（位爵）氏名女（位）（典侍）名～

何月日時誕生
何月日命名
何月日號何宮
何月日成婚
（何月日夫タル何親王大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス）
（何月日離婚ニ付何内親王（何女王）ノ部ニ移ス）

（年月日離婚除籍）
年月日時薨去
年月日葬送墓所何々

～何内親王　母　何内親王（何女王）（何子）～生母　（位爵）氏名女名～

年月日時誕生
年月日命名
年月日號何宮
（年月日何親王（何王）ニ嫁シタルニ付何親王（何王）妃ノ部ニ移ス）
（年月日皇后ニ立チタルニ付大統系圖ニ移記ス）
（年月日離婚復歸）
（年月日位爵氏名ニ嫁シタルニ付除籍）
（年月日離婚復籍）
年月日時薨去
年月日葬送墓所何々

何親王

母　何內親王（何女王）（何子）
〔生母（位爵）氏名女名〕

年月日時　誕生
年月日　命名
年月日　號何宮
年月日　成婚　妃何內親王（何女王）（何子）
（年月日　皇位繼承ノ順序ヲ變更セラル）
（年月日　大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス）
（年月日　直系尊屬タル何親王大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス）
（年月日　親王ノ號ヲ宣賜セラル）
（年月日　離婚）
（年月日　臣籍ニ除リタルニ付除籍）
年月日時　薨去
年月日　葬送　墓所何々

何王妃（名）

父　（何）天皇（御名）（何親王）（何王）（位爵氏名）
母　（何）皇后（御名）（（何）皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名））
（何內親王）（何女王）（何子）（位爵氏名妻名）
〔生母（位爵氏名女（位）（典侍）名〕

年月日時　誕生
年月日　命名
年月日　號何宮
年月日　成婚
（年月日　夫タル何王大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス）
（年月日　夫タル何王ノ直系尊屬タル何親系大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス）
（年月日　離婚ニ付何內親王（何女王）ノ部ニ移ス）
（年月日　離婚除籍）
年月日時　薨去
年月日　葬送　墓所何々

何女王　母　何內親王（何女王）（何子）
〔生母（位爵）氏名女名〕
年月日時　誕生
年月日　命名
年月日　號何宮
（年月日　何親王（何王）ニ嫁シタルニ付何親王（何王）妃ノ部ニ移ス）
（年月日　皇后ニ立チタルニ付大統系圖ニ移記ス）
（年月日　直系尊屬タル何親王大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス）
年月日時　誕生
年月日　命名
年月日　號何宮
年月日時　薨去
年月日　葬送　墓所何々

何內親王　母　何親王ニ同ジ

母　何內親王（何女王）（何子）〔生母（位爵）氏名女名〕

何親王

第三世

年月日時　誕生
年月日　命名
年月日　號何宮
年月日　成婚　妃何內親王（何女王）（何子）
（年月日　皇位繼承ノ順序ヲ變更セラル）
（年月日　大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス）
（年月日　父タル何親王大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス）
（年月日　離婚）
年月日時　薨去
年月日　葬送　墓所何々

何親王妃(名)　父(何)天皇(御名)(親何王)(何王)(位爵氏名)
母(何)皇后(御名)((何)皇太后(御名))((何)太皇太后(御名))
(何内親王)(何女王)(何子)(位爵氏名妻名)
〔生母(位爵)氏名女(位)(典侍)名〕
年月日時誕生
年月日命名
年月日號何宮
年月日成婚
(年月日夫タル何親王大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス)
(年月日夫タル何親王ノ父何親王大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス)
(年月日離婚ニ付何内親王(何女王)ノ部ニ移ス)
(年月日離婚除籍)
年月日時薨去
年月日葬送墓所何々)

何内親王　母何親王(何女王)(何子)
〔生母(位爵)氏名女名〕
年月日時誕生
年月日命名
年月日號何宮
(年月日何親王(何王)ニ嫁シタルニ付何親王(何王)妃ノ部ニ移ス)
(年月日皇后ニ立チタルニ付大統系圖ニ移記ス)
(年月日父タル何親王大統ヲ繼承セラレタルニ付大統系圖ニ移記ス)
(年月日離婚復歸)
(年月日位爵氏名ニ嫁シタルニ付除籍)
(年月日離婚復籍)
年月日時薨去
年月日葬送墓所何々

何親王　母何親王ニ同ジ

（記載例　第三世親王ニ準ズ）

何親王

第四世

何親王　何親王妃

何內親王

何親王

同　前

母　何內親王（何女王）（何子）〔生母（位爵）氏名女名〕

何王

第五世（年月日　內親王ノ號ヲ宣賜セラル）

（年月日　離婚復歸）

（年月日　位爵氏名ニ嫁シタルニ付除籍）

（年月日　離婚復籍）

年月日時　薨去

年月日　葬送　墓所何々

何王　母　何女王ニ同ジ

何女王　母　何女王ニ同ジ

何王

第六世　何王妃

何女王

何王

皇親譜

何天皇直系卑屬之部

御璽

年月日

枚數何枚

宮內大臣（爵）氏名

圖書頭（爵）氏名

親王名	父母（生母）生誕	命名	宮號
何親王	何親王妃　何內親王（何女王）（何子） （位爵）氏名女名 年月日午（前）（後）何時何分 右年月日公告ニ依リ登錄ス	年月日 右年月日公告ニ依リ登錄ス 、、、	何宮　年月日 右年月日公告ニ依リ登錄ス 、、、
		圖書頭（爵）氏名 、、、（、）、	、

（年月日何天皇ノ皇養子（皇猶子）又ハ何々ノ繼嗣ニ定メラル）
右勅裁ニ依リ登錄ス
、、、　　、、、（、）、　、
年　月　日　親王ノ號ヲ宣賜セラル
右年月日勅裁ニ依リ登錄ス
、、、　　、、、（、）、　、
年　月　日　何親王（何王）後見人ト爲ル
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　　、、、（、）、　、
年月日何親王（何王）後見人ニ更任ス
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　　、、、（、）、　、
年　月　日
右年月日公告ニ依リ登錄ス

（親王ノ號ヲ宣賜セラル）
（後見ニ付セラル）
（後見人ヲ更フ）
（後見已ム）

壹字訂正
圖書頭
（爵）氏名

成婚
、、、　　、、、（、）、　、
年月日何內親王（何女王）（何子）
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　　、、、（、）、　、
年　月　日
右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、　　、、、（、）、　、
年　月　日
右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、　　、、、（、）、　、
年　月　日
右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、　　、、、（、）、　、
年　月　日
右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、　　、、、（、）、　、
年　月　日

（攝政ノ順位ヲ變更セラル）
（攝政ニ任ズ）
（攝政ヲ罷ム）
（太傅ニ任ズ）

年月日勅定（裁判ノ確定）ニ依リ取消（變更）ス
年月日
圖書頭
（爵）氏名

（太傅ヲ罷ム）

皇位繼承ノ順位ヲ變更セラル

右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　、、、（、）、　、
年　月　日
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　、、、（、）、　、
年　月　日
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　、、、（、）、　、
大統ヲ繼承セラレタルトキハ
（年月日大統ヲ繼承セラレタルニ付大統譜ニ移記ス）ト記載ス
父タル親王大統ヲ繼承セラレタルトキハ
（父タル親何王大統ヲ繼承セラレタルニ付皇親譜（天皇御名直系卑屬）ノ部ニ移記ス）ト記載ス
、、、　、、、（、）、　、

（妃薨去）

年　月　日
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　、、、（、）、　、

（離婚）

年　月　日
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　、、、（、）、　、

（懲戒處分）

年月日何々ニ由リ皇族特權ノ（一部）（全部ヲ停止）（剝奪）セラル
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　、、、（、）、　、

（懲戒處分解除）

年月日何々ニ由リ懲戒處分（皇族特權（一部）（全部）ノ（停止）（剝奪）ヲ解除セラル
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、　、、、（、）、　、

（禁治產宣告）

年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ト爲ル

右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、（、）、
年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ニ更任ス
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、（、）、
（禁治產解除）　年　月　日
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、（、）、
（薨　去）　年月日午（前）（後）何時何分
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、（、）、
（葬　送）　年月日墓所何府（縣）郡（市）（町）村何々
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、（、）、

內親王名	父 母（生母） 誕生 命名 宮號
	何親王 何親王妃　何內親王（何女王）（何子） （位爵）氏名女名 年月日午（前）（後）何時何分 右年月日公告ニ依リ登錄ス 年　月　日 圖書頭（爵）氏　名 年　月　日 右月日公告ニ依リ登錄ス 、、、（、）、 、 何宮　年月日 右年月日公告ニ依リ登錄ス 、、、（、）、 、

（後見ニ付セラル）	年月日何親王（何王）後見人ト爲ル 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃
（後見人ヲ更フ）	年月日何親王（何王）後見人ニ更任ス 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃
（後見已ム）	年　月　日 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃
（皇后ト爲ル）	年月日天皇御名ノ皇后ト爲リタルニ付大統譜ニ移記ス 右年月日公布ニ依リ登錄ス 〃〃
（成　婚）	年月日（皇太子（皇太孫）何親王）（何親王）（何王）ノ妃ト爲リタルニ付皇親譜天皇（御名）直系卑屬ノ部又ハ何天皇直系卑屬ノ部何

	親王（何王）妃ノ欄ニ移記ス 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃
（除　籍）	年月日位爵氏名ニ嫁シタルニ付除籍（但シ特旨ニ依リ内親王ノ稱ヲ有ス） 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃
（攝政ノ順位ヲ變更セラル）	年　月　日 右年月日公布ニ依リ登錄ス 〃〃
攝政ニ任ズ	年　月　日 右年月日公布ニ依リ登錄ス 〃〃
攝政ヲ罷ム	年　月　日

	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	、、、（、）、
（復歸）	父タル親王大統ヲ繼承セラレタルニ付皇親譜天皇御名（直系卑屬ノ部ニ移記ス）ト記載ス
	年月日何親王（何王）ト離婚ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、（、）、
（復籍）	年月日位爵氏名ト離婚ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、（、）、
（懲戒處分）	年月日何々ニ由リ皇族特權ノ（一部）（全部）ヲ（停止）（剝奪）セラル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、（、）、

（懲戒處分解除）	年月日何々ニ由リ懲戒處分（皇族特權（一部）（全部）ノ（停止）（奪剝）ヲ解除セラル
（禁治產宣告）	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ト爲ル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、（、）、
（管財者ヲ更フ）	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ニ更任ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、（、）、
（禁治產解除）	年月日
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、（、）、
（薨去）	年月日午（前）（後）何時何分
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、（、）、

（葬送）　年月日墓所何府（縣）郡（市）（町）村何々
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、

王名

父　何親王（何王）
母　何親王（何王）妃何内親王（何女王）（何子）
（生母）（位爵）氏名女名
誕生　年月日午（前）（後）何時何分
右年月日公告ニ依リ登錄ス
命名　年月日

圖書頭（爵）氏名

宮號

右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、
何宮　年月日
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、
年月日何親王（何王）（後見ニ付セラル）
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、
年月日何親王（何王）（後見人ヲ更フ）
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、
年月日（後見已ム）
右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、

成婚	年月日妃何内親王（何女王）（何子） 右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（攝政ノ順位ヲ變更セラル）	年月日 右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（攝政ニ任ズ）	年月日 右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（攝政ヲ罷ム）	年月日 右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（太傅ニ任ズ）	年月日 右年月日公告ニ依リ登錄ス

（太傅ヲ已ム）	年月日 右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（皇位繼承ノ順ヲ變更セラル）	年月日 右年月日公布ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（妃薨去）	年月日 大統ヲ繼承セラレタルトキハ （年月日大統ヲ繼承セラレタルニ付大統譜ニ移記ス）ト記載ス 父タル親王大統ヲ繼承セラレタルトキハ （父タル何親王大統ヲ繼承セラレタルニ付皇親譜天皇御名直系卑屬ノ部ニ移記ス）ト記載ス
、、、	、、、（、）、

右年月日公告ニ依リ登錄ス

、、、　　、、、（、）、　　、

（離婚）

年　月　日

右年月日公告ニ依リ登錄ス

、、、　　、、、（、）、　　、

（臣籍ニ降ル）

年月日何々ニ由リ除籍（朱書）

右年月日公告ニ依リ登錄ス

、、、　　、、、（、）、　　、

（懲戒處分）

年月日何々ニ由リ皇族特權ノ（一部）（全部）ヲ（停止）（剝奪）セラル

右年月日公告ニ依リ登錄ス

、、、　　、、、（、）、　　、

（懲戒處分解除）

年月日何々ニ由リ懲戒處分（皇族特權（一部）（全部）ノ（停止）（剝奪）ヲ解除セラル

右年月日公告ニ依リ登錄ス

、、、　　、、、（、）、　　、

（禁治產宣告）

年月日何親王（何王）（位爵氏名）管財者ト爲ル

右年月日公告ニ依リ登錄ス

、、、　　、、、（、）、　　、

（管財者ヲ更フ）

年月日何親王（何王）（位爵氏名）管財者ニ更任ス

右年月日公布ニ依リ登錄ス

、、、　　、、、（、）、　　、

（禁治產解除）

年　月　日

右年月日公告ニ依リ登錄ス

、、、　　、、、（、）、　　、

（薨　去）

年月日午（前）（後）何時何分

右年月日公告ニ依リ登錄ス

、、、　　、、、（、）、　　、

宮號	右年月日公告ニ依リ登錄ス 、、、
何宮 年月日	右年月日公告ニ依リ登錄ス 、、、
（後見ニ付セラル）	年月日何親王（何王）後見人ト爲ル 右年月日公告ニ依リ登錄ス 、、、（、）、
（後見ヲ更フ）	年月日何親王（何王）後見人ニ更任ス 右年月日公告ニ依リ登錄ス 、、、（、）、
（後見已ム）	年月日 右年月日公告ニ依リ登錄ス 、、、（、）、

（葬送）	年月日墓所何府（縣）郡（市）（町）村何々 右年月日公告ニ依リ登錄ス 、、、（、）、

女王名	
父 母 （生母） 誕生 命名	何親王（何王） 何親王（何王）妃何内親王（何女王）（何子） （位爵）氏名女名 年月日午（前）（後）何時何分 右年月日公告ニ依リ登錄ス 年月日 圖書頭（爵）氏名

（皇后ト爲ル）	年月日天皇御名ノ皇后ト爲リタルニ付大統譜ニ移記ス
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	〃〃
（成婚）	年月日（皇太子（皇太孫）何親王）（何親王）（何王）ノ妃ト爲リタルニ付皇親譜天皇御名直系卑屬ノ部「又ハ」何天皇直系卑屬ノ部何親王（何王）妃ノ欄ニ移記ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃
（除籍）	年月日何爵氏名ニ嫁シタルニ付除籍（但シ特旨ニ依リ女王ノ稱ヲ有ス）
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃
（攝政ノ順位ニ變更セラル）	年月日
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	〃〃

（攝政ニ任ズ）	年月日
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	〃〃
（攝政ヲ罷ム）	年月日
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	〃〃
	父タル親王（王）大統ヲ繼承セラレタルトキハ
	（父タル何親王（何王）大統ヲ繼承セラレタルニ付皇親譜天皇御名直系卑屬ノ部ニ移記ス）ト記載ス
（復歸）	年月日何親王（何王）ト離婚ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃
（復籍）	年月日位爵氏名ト離婚ス

	右年月日公告ニ依リ登錄ス
（懲戒處分）	〃〃（〃）〃
	年月日何々ニ由リ皇族特權ノ（一部）ヲ（停止）（剝奪）セラル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
（懲戒處分解除）	〃〃（〃）〃
	年月日何々ニ由リ懲戒處分（皇族特權（一部）（全部）ノ（剝奪）ヲ解除セラル
（禁治產宣告）	〃〃（〃）〃
	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ト爲ル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
（管財者ヲ更フ）	〃〃（〃）〃
	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ニ更任ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃（〃）〃

（禁治產解除）	年　月　日
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃（〃）〃
（薨　去）	年月日午（前）（後）何時何分
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃（〃）〃
（葬　送）	年月日墓所何府（縣）郡（市）（町）村何々
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃（〃）〃
	〃

何親王(何王)妃	名
父	(何)天皇(御名)(皇太子(皇太孫)何親王)(何親王)(何王)(位爵氏名)
母	(何)皇后(御名)(何)皇太后(御名))((何)太皇太后(御名))(皇太子(皇太孫)何親王)((何)親王)(何王)妃何内親王(何女王)(何子))(位爵氏名妻名)
(生母)	(位爵)氏名女(位)(典侍)名
誕生	年月日午(前)(後)何時何分
命名	年月日
宮號	何宮 年月日
	右皇親譜(何)天皇(御名)直系卑屬ノ部何内親王(何女王)ノ欄ヨリ移記ス
	妃臣籍ヨリ出デタルトキハ宮號ヲ除キ

成婚	離婚
右位爵戸籍ノ謄本ヲ徴シ之ヲ登錄スト記載ス	
年月日皇太子(皇太孫)何親王(何親王)(何王)ノ妃ト爲ル	
右年月日公告ニ依リ登錄ス	
〃〃	〃〃(〃)〃
夫タル親王(王)大統ヲ繼承セラレタルトキハ	
(年月日夫タル何親王(何王)大統ヲ繼承セラレタルニ付大統譜ニ移記ス)ト記載ス	
右年月日公布ニ依リ登錄ス	〃〃(〃)〃
〃〃	年月日離婚ニ付何内親王(何女王)ノ欄ニ移ス又ハ除籍(朱書)ト記載ス
〃〃	右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃	〃〃(〃)〃
〃	〃

（何親王（何王）薨去	年　月　日 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃
（除籍）	臣籍ヨリ出タル寡居ノ妃復歸ノトキハ 年月日位爵氏名方ヘ復歸ニ付除籍 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃（〃）〃
	臣籍ニ降リタルトキハ 夫タル王ト共ニ臣籍ニ降リタルニ付除籍 年月日何々ニ由リ皇族特權ノ（一部）（全部）ヲ（停止）（剝奪）セラル 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃（〃）〃
（懲戒處分）	年月日何々ニ由リ懲戒處分（皇族特權（一部）（全部）ノ（停止）（剝奪）ヲ解除セラル 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃（〃）〃
（懲戒處分解除）	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ト爲ル 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃（〃）〃
（管財者ヲ更フ）	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ニ更任ス 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃（〃）〃
（禁治產宣告）	年　月　日 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃（〃）〃
（禁治產解除）	年月日午（前）（後）何時何分 右年月日公告ニ依リ登錄ス 〃〃（〃）〃
薨去	

葬送

年月日墓所何府（縣）郡（市）（町）村何々
右年月日公告ニ依リ登錄ス

皇親譜

天皇御名直系卑屬之部

御璽

年月日

枚數何枚

宮内大臣（爵）氏　名

圖書頭（爵）氏　名

親王	名		
	父		天皇（御名）（皇太子（皇太孫）（何親王）（何親王）
	母		皇后（御名）（皇太子）（皇太孫）（何親王）（何親王）妃何內親王（何女王）（何子）
	（生母）		（位爵）氏名女（位）（典侍）名
	誕生		年月日午（前）（後）何時何分
			右年月日公告ニ依リ登錄ス
		年月日	圖書頭（爵）氏　名
	命名		右年月日公告ニ依リ登錄ス
		、、、	、、、（、）、
	宮號	何宮 年月日	、
		年月日公公ニ依リ登錄ス	

後見ニ付セラル	年月日　何親王（何王）後見人ト爲ル	、、、（、）、
	右年月日公告ニ依リ登錄ス	
（後見人ヲ更フ）	、、、	、、、（、）、
	年月日何親王（何王）後見人ニ更任ス	、
	右年月日公告ニ依リ登錄ス	
後見已ム	、、、	、、、（、）、
	年　月　日	
	右年月日公告ニ依リ登錄ス	
成婚	、、、	、、、（、）、
	年月日　妃何內親王（何女王）（何子）	、
（立太子（立太孫））	右年月日公告ニ依リ登錄ス	
	、、、	、、、（、）、
	年　月　日	、

右年月日公告ニ依リ登錄ス	
〃〃	〃
年　月　日	〃（〃）
右年月日公布ニ依リ登錄ス	
〃〃	〃
年　月　日	〃（〃）
右年月日公布ニ依リ登錄ス	
〃〃	〃
年　月　日	〃（〃）
右年月日公布ニ依リ登錄ス	
〃〃	〃
年　月　日	〃（〃）
右年月日公告ニ依リ登錄ス	
〃〃	〃

（攝政ノ順位ヲ變更セラル）

攝政ニ任ズ

攝政ヲ罷ム

太傅ニ任ズ

年　月　日	
右年月日公告ニ依リ登錄ス	
〃〃	〃
年　月　日	〃（〃）
右年月日公布ニ依リ登錄ス	
〃〃	〃
年　月　日	〃（〃）
大統ヲ繼承セラレタルトキハ	
（年月日大統ヲ繼承セラレタルニ付大統譜ニ移記ス）ト記載ス	
右年月日公布ニ依リ記載ス	
〃〃	〃
年　月　日	〃（〃）
右年月日公告ニ依リ登錄ス	
〃〃	〃
年　月　日	〃（〃）
	〃

太傅ヲ罷ム

皇位繼承ノ順位ヲ變更セラル

（妃薨去）

（離婚）

（懲戒處分）	右年月日公告ニ依登錄ス
、、、	年月日何々ニ由リ皇族ノ特權ノ（一部）（全部）ヲ（停止）（剝奪）セラル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（懲戒處分解除）	年月日何々ニ由リ懲戒處分（皇族特權（一部）（全部）ノ（停止）（剝奪）ヲ解除セラル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（禁治產宣告）	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者トナル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（管財者ヲ更フ）	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ニ更任ス

	右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（禁治產解除）	年　月　日
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（薨　去）	年月日午（前）（後）何時何分何所ニ於テ
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（葬　送）	年月日墓所何府（縣）郡（市）（町）村何々
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、

內親王	名
父	天皇(御名)(皇太子(皇太孫)何親王)(何親王)
母	皇后(御名)(皇太子(皇太孫)何親王)(何親王妃)(何內親王)(何女王)(何子)
(生母)	(位爵)氏名女(位)(典侍)名
誕生	年月日午(前)(後)何時何分
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	年月日　圖書頭(爵)氏　名
命名	年月日
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、　、、、(、)、　、
宮號	何宮　年月日
	右年月日公告ニ依リ登錄ス

	、、、　、、、(、)、　、
(後見ニ付セラル)	年月日何親王(何王)後見人ト爲ル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、　、、、(、)、　、
後見人ヲ更フ	年月日何親王(何王)後見人ニ更任ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、　、、、(、)、　、
後見已ム	年月日
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、　、、、(、)、　、
皇后ニ立ツ	年月日皇后ニ立チタルニ付大統譜ニ移記ス
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	、、、　、、、(、)、　、
成婚	年月日(何親王)(何王)ニ嫁シタルニ付何天皇直系卑屬ノ部何親

	王（何王）妃ノ欄ニ移記ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃〃
（除籍）	年月日位爵氏名ニ嫁シタルニ付除籍
	但シ特旨ニ依リ内親王ノ稱ヲ有ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃〃
	年月日
（攝政ノ順位ヲ變更セラル）	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	〃〃〃
攝政ニ任ズ	年月日
	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	〃〃〃
攝政ヲ罷ム	年月日
	〃〃〃

	右年月日公布ニ依リ登錄ス
	〃〃〃
（復歸）	年月日 何親王（何王）ト離婚ス
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃〃
（懲戒處分）	年月日何々ニ由リ皇族特權ノ（一部）（全部）ヲ（停止）（剝奪）セラル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃〃
（懲戒處分解除）	年月日何々ニ由リ懲戒處分（皇族特權（一部）（全部）ノ（停止）（剝奪）ヲ解除セラル
	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	〃〃〃
（禁治產宣告）	年月日 何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ト爲ル
	〃〃〃

右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃
年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ニ更任ス
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃
年　月　日
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃
年月日午（前）（後）何時何分
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃
年月日墓所何府（縣）郡（市）（町）村何々
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃

（管財者ヲ更フ）
（禁治產解除）
（薨去）
（葬送）

何親王妃　府

父　何）天皇（御名）（皇太子（皇太孫）何親王）（何親王）（何王）（位爵氏名）
母　（何）皇后（御名）（（何）皇太后（御名））（（何）太皇太后（御名））（皇太子（皇太孫）何親王）（何親王）（何親王）（何王）妃何内親王（何女王）（何子））（位爵氏名妻名）
（生母）（位爵）氏名女（位）（典侍）名
誕生　年月日午（前）（後）何時何分
命名　年月日
宮號　何宮
生母名號　年月日
右皇親譜（何）天皇（御名）直系卑屬ノ部何内親王（何女王）ノ欄ヨリ移記ス
妃臣籍ヨリ出デタルトキハ宮號ヲ除キ

右位爵氏名戸籍ノ謄本ヲ徴シ之ヲ登錄スト記載ス

年　月　日　　圖書頭（爵）氏　　名

年月日皇太子（皇太孫）何親王（何親王）ノ妃ト爲ル
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃（〃）〃
夫タル親王大統ヲ繼承セラレタルトキハ
（年月日夫タル何親王大統ヲ繼承セラレタルニ付大統譜ニ移記ス）ト
記載ス
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃（〃）〃
年月日　離婚ニ付何内親王（何女王）ノ欄ニ移ス又ハ除籍（朱書）ト
記載ス
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃（〃）〃

（何親王（何王）薨去）　年　月　日
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃（〃）〃

（除籍）　臣籍ヨリ出デタル寡居ノ妃復順ノトキハ
年月日位爵氏名方ヘ復歸ニ付除籍
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃（〃）〃

（懲戒處分）　年月日何々ニ由リ皇族特權ノ（一部）（全部）ヲ（停止）（剝奪）セラル
右年月日公告ニ依リ登錄ス
〃〃〃（〃）〃

（懲戒處分解除）　年月日何々ニ由リ懲戒處分（皇族特權ノ（一部）（全部）ノ（停止）（剝奪）ヲ解除セラル
右年月日公告ニ依リ登錄ス

（禁治産宣告）	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ト爲ル 右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（管財者ヲ更フ）	年月日何親王（何王）（（位爵）氏名）管財者ニ更任ス 右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（禁治産解除）	年　月　日 右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（薨　去）	年月日午（前）（後）何時何分 右年月日公告ニ依リ登錄ス
、、、	、、、（、）、
（葬　送）	年月日墓所何府（縣）郡（市）（町）村何々
、、、	、、、（、）、

	右年月日公告ニ依リ登錄ス
	、、、（、）、
	、

皇統御系譜

●嫡出一、庶出三十一、生母十五人。

皇女	近衛家照ヘ降嫁	寛文九年二月廿八日降誕 同年七月廿九日薨	五月二日	
皇子	憲子內親王	寛文九年三月廿一日降誕 貞享五年四月十五日薨	十九年〇廿五日	
皇女	勸修寺	寛文十一年八月十五日降誕 元祿十四年十二月二日薨	三十年三月十八日	
皇女	濟深法親王	寛文十二年九月十二日降誕 寶永四年九月十六日薨	三十五年〇五日	
皇女	仁和寺	寛文十三年八月廿三日降誕 延享三年三月廿三日薨	七十二年七月一日	
皇子	寬隆法親王	延寶三年七月五日降誕 同五年七月十八日薨	二年〇十四日	
皇女	二條綱平ヘ降嫁	延寶三年九月三日降誕 寶永六年十二月十七日崩	三十四年三月十五日	
皇女	榮子內親王			
皇子	東山天皇			
○靈元天皇				

皇統御系譜皇子ナシ

皇女	伏見邦永親王妃	延寶三年十一月廿七日降誕 同五年六月廿五日薨	一年六月廿九日	
皇子	福子內親王	延寶四年九月十四日降誕 寶永四年七月三日薨	二十年九月二十日	
皇女	妙法院	延寶四年十二月廿九日降誕 享保三年十一月廿九日薨	四十一年十一月一日	
皇女	堯延法親王	延寶四年十二月廿九日降誕 享保元年九月十三日薨	四十七年八月三日	
皇子	大聖寺	延寶五年閏十一月五日降誕 享保十年七月七日薨	三十年六月廿二日	
皇女	永秀皇女	延寶八年八月十六日降誕 寶永八年三月七日薨	三年四月廿四日	
皇子	京極宮	延寶八年十一月八日降誕 正德二年八月十五日薨	廿一年九月八日	
皇女	文仁親王	延寶九年七月廿七日降誕 天和三年十二月廿日薨	三十年六月廿三日	
皇女	京極宮	貞享三年二月廿一日降誕 享保元年九月十三日薨	五年四月六日	
皇子	滕子內親王	貞享五年五月廿一日降誕 元祿六年九月廿六日薨	二年九月廿九日	
皇子	皇子號作宮	元祿二年六月廿五日降誕 同五年四月二十三日薨	廿一年九月八日	
皇女	大覺寺	元祿三年十一月八日降誕 正德二年八月十五日薨	六月二日	
皇子	性應法親王	元祿五年十月廿七日降誕 同六年四月廿八日薨	九年七月廿二日	
皇女	林丘寺	元祿六年三月三日降誕 同十五年十月廿四日薨	五十五年十一月五日	
皇女	元秀皇女	元祿九年七月三日降誕 寶曆二年六月七日薨		

一乘院	皇子	元祿十年八月四日降誕 同年十月廿三日薨	二月二十日
	尊賞法親王	元祿十二年十一月廿二日降誕 延享三年十月九日薨	四十六年十月十八日
	永應皇女	元祿十五年十一月廿日降誕 安永四年五月廿四日薨	七十二年六月五日
	皇子	寶永六年九月晦日降誕 正德三年四月六日薨	三年六月七日
	皇子	寶永七年九月十三日降誕 正德三年四月廿九日薨	二年七月十七日
	皇女	寶永七年十一月晦日降誕 正德二年四月廿三日薨	一年四月廿四日
有栖川宮	職仁親王	正德三年九月十日降誕 明和六年十月廿二日薨	五十六年一月十三日
德川家繼へ降嫁結納家繼薨京都ニ住	吉子內親王	正德四年八月廿二日降誕 寶曆八年九月廿三日薨	四十四年一月一日
知恩院	尊胤法親王	正德五年三月三日降誕 元文四年十二月二十六日薨	二十四年九月廿四日
妙法院	堯恭法親王	享保二年四月三日降誕 明和元年後十二月五日薨	四十七年八月三日
	皇女	享保六年七月二日降誕 同八年九月十九日薨	二年二月十八日

嫡出一、庶出三一、生母十五人。

計三二內 男一八、二十歲以上一〇、二十歲以下八、
女一四、同七、同七、

●嫡出一、庶出九、生母四人。

輪王寺	皇子	元祿六年二月十三日降誕 同七年六月十日薨	一年三月廿八日
	皇子	元祿九年五月五日降誕 同十一年六月廿五日薨	二年一月廿一日
伏見貞達親王妃	公寬法親王	元祿十年二月廿一日降誕 元文三年三月十五日薨	四十一年〇廿五日
	秋子內親王	元祿十三年正月五日降誕 寶曆六年三月廿九日薨	五十六年二月廿五日
	皇子	元祿十三年三月十五日降誕 同十四年十一月九日薨	一年七月廿五日
○東山天皇	中御門天皇	元祿十四年十二月十七日降誕 元文二年四月十一日崩	三十五年三月廿五日
	皇女	元祿十六年八月三日降誕 寶永二年四月廿七日薨	一年八月廿五日
閑院宮	直仁親王	寶永元年九月九日降誕 寶曆三年六月三日薨	四十八年八月廿五日
	皇女	寶永四年九月十二日降誕 同日薨	一日
曇華院	聖祝皇女	寶永六年六月十三日降誕 享保六年四月二十日薨	十一年十月八日

嫡出一、庶出九、生母四人。

計一〇內 男六、二十歲以上三、二十歲以下三、
女四、同一、同三、

●嫡一、庶出十三、生母七人。

○中御門天皇——櫻町天皇　享保五年正月一日降誕　延享三年四月廿三日崩
　曇華院——聖珊內親王　享保六年九月十八日降誕　寶曆九年十一月三日薨
　輪王寺——公尊法親王　享保七年正月三日降誕　天明八年三月廿五日薨
　聖護院——忠譽法親王　享保七年十一月五日降誕　天明八年四月十一日薨
　仁和寺——慈仁法親王　享保八年五月廿五日降誕　同廿年八月六日薨
　　皇女　同享保八年十一月廿八日降誕　同年十二月十日薨
　　皇女　同享保九年九月十五日降誕　同十年十一月十六日薨
　寶鏡寺——理秀皇女　享保十年十一月五日降誕　明和元年十一月廿日薨
　典仁親王妃——成子內親王　享保十四年八月四日降誕　明和八年五月十二日薨
　光照院——尊乘皇女　享保十五年二月十七日降誕　寬政元年三月四日薨
　大聖寺——永皎皇女　享保十七年十一月廿二日降誕　文化五年七月四日薨
　　皇子　同享保十九年六月廿四日降誕　同年七月十六日薨
　　皇女　同享保二十年八月十四日降誕　同年十月三日薨

三十年三月廿三日
三十八年一月十七日
六十六年二月廿三日
六十五年五月七日
十二年二月十二日
十　三　日
一年二月二日
三十九年一月十六日
四十一年九月九日
五十九年○十八日
七十五年七月十三日
廿　三　日
一月二十日

仁和寺——遵仁法親王　享保廿一年正月十二日降誕　延享四年五月一日薨　十一年三月廿日

嫡出　一、庶出　一三、生母　七人。

計　一四　內　男六、二十歲以上　三、　二十歲以下　三、
　　　　女八、同　五、　同　三、

●嫡出二、庶出一、生母二人。

皇統系譜（八月四日降誕）

○櫻町天皇
- 盛子內親王　元文二年閏十一月十一日降誕　延享三年六月廿五日薨
- 後櫻町天皇　元文五年八月三日降誕　文化十年閏十一月三日崩　八年七月十五日
- 桃園天皇　寬保元年二月廿九日降誕　寶曆十二年七月廿一日崩　二十一年四月廿三日

嫡出　二、庶出　一、生母　二人。
計三　內　男　一、
　　女　二、

●嫡出二。

○桃園天皇
- •後桃園天皇　寶曆八年七月二日降誕　安永八年十一月九日崩　廿一年四月八日
- •貞行親王　寶曆十年三月廿四日降誕　明和九年六月二十日薨　十二年二月廿七日

•嫡出　二。
內　男　二、二十歲以上　一、二十歲以下　一、

●嫡出一。

○後桃園天皇

新清和院

●欣子內親王　安永八年正月廿四日降誕　弘化三年六月二十日崩

●嫡出女　一、　二十歲以上　一、

七十七年四月廿七日

皇統御系譜（公顯）

○東山天皇

直仁親王

○典仁親王

聖護院

●嫡出一、庶出十一、生母六人。

仁和寺	美仁親王	寶曆七年十一月廿五日降誕　文政十年十月六日薨　六十年十月十二日
輪王寺	深仁親王	寶曆九年正月十四日降誕　文化四年七月廿一日薨　四十八年六月八日
輪王寺	公璋法親王	寶曆十年二月十四日降誕　安永五年七月十日薨　十六年四月廿七日
妙法院	公延法親王	寶曆十二年十一月四日降誕　享和三年五月二十七日薨　四十年六月廿四日
靈鑑寺	王女	明和二年十二月廿二日降誕　同四年三月三日薨　一年二月十二日
	眞仁法親王	明和五年六月五日降誕　文化二年八月九日薨　三十七年二月五日
	宗恭女王	明和六年十二月十八日降誕　文政四年十一月十九日薨　五十一年十一月二日
	●光格天皇	明和八年八月十五日降誕　天保十一年十一月十九日崩　六十九年三月五日
	盈仁法親王	明和九年十月八日降誕　文政十三年十一月廿三日薨　五十八年一月十六日
	王子	安永三年三月十五日降誕　同八年六月九日薨　五年二月廿五日
	王子	安永五年七月五日降誕　同六年四月二日薨　八月廿八日
	王子	安永七年七月六日降誕　同九年三月廿七日薨　一年八月廿二日

嫡出 一、庶出 一一、生母 六人。

計 一三 內 男 一〇、二十歲以上 六、二十歲以下 四、

女 二、同 一、同 一、

●嫡出二、庶出十五、生母七人。

皇統御系譜（正月廿三日降誕）

同上（二月六日崩）

同上（五月廿九日薨）

○光格天皇

禮仁親王	寬政二年六月二日降誕 同三年六月二日薨	一年〇一日
皇女	寬政四年二月九日降誕 同五年五月九日薨	一年三月一日
皇子	寬政五年九月二日降誕 同六年十二月四日薨	一年三月三日
溫仁親王	寬政十二年正月廿二日降誕 同年四月四日薨	二月十三日
仁孝天皇	寬政十二年二月廿一日降誕 弘化三年正月廿六日崩	四十五年十一月六日
皇女	文化五年正月二日降誕 同六年五月三十日薨	一年四月廿九日
盛仁親王	文化七年六月廿七日降誕 同八年五月十七日薨	十月廿一日
皇女	文化八年四月廿五日降誕 翌日薨	二日
皇子	文化十二年八月廿八日降誕 文政二年正月十九日薨	三年五月廿二日
悅仁親王	文化十三年正月廿八日降誕 文政四年二月十一日薨	五年〇十四日
皇女	文化十四年九月廿四日降誕 文政二年正月六日薨	一年四月十三日
永潤女王	文政三年五月二日降誕 天保元年五月廿八日薨	十年〇廿七日
皇女	文政五年二月廿日降誕 同年七月五日薨	四月十六日

蓁子內親王	文政七年五月十一日降誕 天保十三年正月十七日薨	十七年八月七日
皇女	文政九年六月八日降誕 同十年八月十九日薨	一年二月十二日
皇女	文政九年九月廿七日降誕 同十年五月六日薨	七月十日
皇子	天保四年四月廿八日降誕 同六年十月四日薨	二年五月七日

嫡出二、庶出一五、生母七人。

計一七內 男八、二十歲以上一、二十歲以下七、

女九、同○同九、

●嫡出三、庶出十二、生母六人。

安仁親王	文政三年五月十六日降誕 同四年六月九日薨	一年○廿四日
皇女	文政六年四月二日降誕 翌日薨	二日
皇子	文政八年十月廿二日降誕 同十年四月十二日薨	一年五月廿一日
皇女	文政八年十一月六日降誕 同九年八月七日薨	九月二日
淑子內親王	文政十二年正月十九日降誕 明治十四年十月三日薨	五十二年八月十五日
皇女	文政十二年十二月廿四日降誕 天保二年三月十九日薨	一年二月廿六日
皇子	天保元年十月五日降誕 同二年十月三十日薨	一年○廿六日
孝明天皇	天保二年六月十四日降誕 慶應二年十二月廿五日崩	三十五年六月十二日
皇子	天保三年四月九日降誕 即日薨	一日
皇女	天保三年十月十五日降誕 同四年十二月四日薨	一年一月二十日
節仁親王	天保四年十一月一日降誕 同七年三月五日薨	二年四月五日
皇女	天保七年四月十七日降誕 同年十月廿八日薨	六月十二日
皇女	天保八年正月廿六日降誕 同九年三月廿八日薨	一年二月二日

桂宮

○仁孝天皇

静寛院宮
- 皇子　弘化元年十一月一日降誕　同二年十月二日薨
- 親子内親王　弘化三年閏五月十日降誕　明治十年九月二日薨　十一月二日　三十一年三月廿三日

嫡出　三、庶出　一二、生母　六人。

計　一五　内　男　七、二十歳以上　一、二十歳以下　六、

女　八、同　二、同　六、

●嫡出二、庶出四、生母四人。

○孝明天皇
- 順子内親王　同嘉永三年十一月四日降誕　同五年六月十七日薨
- 皇子　嘉永三年十二月十七日降誕　翌日薨
- 今上　安政五年六月十二日降誕　同六年八月二日薨
- 皇女　安政六年三月廿二日降誕　文久元年五月一日薨
- 皇女　文久元年十月八日降誕　同二年八月十日薨

嫡出　二、庶出　四、生母　四人。

計　六　内　男　二、二十歳以上　一、二十歳以下　一、

女　四、同　〇　同　四、

●庶出十五、生母五人。

○今上

親王	明治六年九月十八日降誕	一日		
同日薨				
內親王	明治六年十一月十三日降誕	一日		
同日薨				
薫子內親王	明治八年一月廿一日降誕	一年四月十八日		
同九年六月八日薨				
敬仁親王	明治十年九月廿三日降誕	十月四日		
同十一年七月廿六日薨				
嘉仁親王	明治十二年八月三十一日降誕			
韶子內親王	明治十四年八月三日降誕	二年一月四日		
同十六年九月六日薨				
章子內親王	明治十六年一月廿六日降誕	七月十三日		
同十六年九月八日薨				
靜子內親王	明治十九年二月十日降誕	一年一月廿五日		
同廿年四月四日薨				
猷仁親王	明治廿年八月廿二日降誕	一年二月廿一日		
同廿一年十一月十二日薨				
昌子內親王	明治廿一年九月三十日降誕			
房子內親王	明治廿三年一月二十八日降誕			
久子內親王	明治廿四年八月七日降誕			
輝仁親王	明治廿六年十一月三十日降誕	八月十八日		
同廿七年八月十七日薨				
聰子內親王	明治廿九年五月十一日降誕	一年三月十八日		
多喜子內親王	明治三十年九月廿四日降誕			
同三十二年一月十一日薨				

庶出　一五、　生母　五人。

伏見宮

伏見邦房親王後

○貞清親王 ・邦尚親王 元和元年　月　日誕生 承應二年十一月廿九日薨 三十七年餘

曇華院 ―女王 寛文九年十一月廿二日薨

久我廣通室 ―梅子 寛永二年　月　日誕生 延寶八年十月廿九日薨 五十四年餘

紀伊光貞室 ―照子 寛永二年　月　日誕生 寶永四年二月廿六日薨 八十一年餘

貞致親王 寛永九年五月廿七日誕生 元祿七年五月十八日薨 六十一年十一月廿二日

曇華院 ―女王 寛永十一年　月　日誕生 寛文十年六月四日薨 三十五年餘

德川家綱室 ―顯子 寛永十六年十一月十日誕生 延寶四年八月五日薨 三十六年八月廿六日

邦道親王 寛永十八年　月　日誕生 承應三年七月廿日薨 十二年餘

女王 寛文十年六月四日薨

・嫡出 一、庶出 八。

圖書寮伏見宮系譜

計九 內 男三、二十歲以上 二、二十歲以下 一、
女六、同 四、同 ○不詳 二、

○貞致親王 ―王子 寛文六年　月　日誕生 同八年五月十六日薨 一年餘

致子 寛文十一年七月廿七日誕生 享保十三年九月四日薨 五十七年一月八日

邦永親子 延寶四年二月廿八日誕生 享保十一年十月廿一日薨 五十年七月廿四日

女王 貞享三年十一月廿一日誕生 元祿二年閏正月三日薨 二年一月十三日

梶井門跡 ―道仁法親王 元祿二年七月廿九日誕生 享保十八年五月十八日薨 四十三年九月廿日

紀伊吉宗室 ―理子 元祿四年八月十七日誕生 寶永七年六月四日薨 十八年九月十九日

王子 元祿五年七月廿日誕生 同十一年十月六日薨 六年二月十七日

專修寺 ―圓猷 元祿七年正月廿二日誕生 寶曆三年正月二日薨 五十八年十一月十一日

生母 二人。

計八內　男五、二十歲以上　三、二十歲以下　二、
　　女三、同　一、同　二、

聖護院	道承法親王	元祿九年正月十三日誕生 正德四年七月八日薨	十八年五月廿六日
	女王	元祿十年七月廿五日誕生 同年十二年七月十八日薨	一年十一月廿四日
青蓮院	尊祐法親王	元祿十年九月廿五日誕生 延享四年九月十六日薨	四十九年十一月廿二日
出雲宣維室	●光子	元祿十二年九月十四日誕生 元文三年十月三日薨	三十九年〇二十日
○邦永親王	●貞建親王	元祿十三年十二月廿一日誕生 寶曆四年七月廿二日薨	五十三年七月二日
勸修寺	尊孝法親王	元祿十四年十二月廿九日誕生 延享五年正月廿七日薨	四十六年〇廿九日
今出河公詮室	輔子	寶永七年十月十八日誕生 寶曆九年九月廿四日薨	四十八年十一月七日
德川家重室	培子	正德元年十月十九日誕生 享保十八年十月三日薨	廿一年十一月十五日
實相院	義周法親王	正德三年二月二日誕生 元文五年五月廿七日薨	廿七年三月廿六日

靈鑑寺	宗眞（薰子）	正德五年九月四日誕生 寶曆十三年十一月十九日薨	四十八年二月十六日

●嫡出　二、庶出　八、生母　五人。

計一〇內　男五、二十歲以上　四、二十歲以下　一、
　　女五、同　四、同　一、

	猷子	享保五年六月廿四日誕生 同廿年六月廿九日薨	十五年〇六日
	豐子	享保七年五月廿七日誕生 同十二年十二月十九日薨	五年六月廿三日
	祺子	享保十四年十二月九日誕生 同十八年六月十七日薨	三年六月九日
○貞建親王	邦忠親王	享保十六年十二月廿四日誕生 寶曆九年五月廿一日薨	廿七年四月廿八日
	邦賴親王	享保十八年十月廿八日誕生 享和二年九月三日薨	六十八年十月六日
青蓮院	尊英法親王	元文二年十二月廿七日誕生 寶曆二年七月二日薨	十四年六月六日
大谷光遍室	壽子	寬保二年八月六日誕生 寬政二年七月廿九日薨	四十七年十一月廿四日

青蓮院	尊信法親王	寛保四年正月十九日誕生 文政七年三月十七日薨	八十年一月廿九日
	王子	寛保四年正月十九日雙生 同年二月十四日薨	廿六日
廣幡前豐室	賢子	延享二年十二月廿五日誕生 寛政元年十一月五日薨	四十三年十月十一日
	王子	寛延元年二月二日誕生 同四年三年廿五日薨	三年一月廿四日
清水重好室	貞子	寛延三年二月廿七日誕生 文政三年八月廿二日薨	七十年五月廿六日
	益子	寶暦三年正月廿五日誕生 同年四月十一日薨	二月十七日

・嫡出 二、庶出 十一、生母 三人。

計 十三人 内 男 六、二十歳以上 三、二十歳以下 三、 女 七、同 三、同 四、

○邦頼親王	貞敬親王	安永四年十二月九日誕生 天保十二年正月十八日薨	六十五年一月十日
輪王寺	公澄法親王	安永五年十月晦日誕生 文政十一年八月七日薨	五十一年九月八日

錦織宅慈室	女王	安永六年七月六日誕生 同八年二月十五日薨	一年七月十日
	女王	安永六年九月十一日誕生 同七年閏七月十五日薨	十月五日
	女王	安永七年七月廿一日誕生 天明三年十二月廿一日薨	五年五月一日
	女王	天明三年九月二日誕生 同八年八月十二日薨	四年十一月十一日
	薫子	天明四年三月九日誕生 天保十一年十二月廿四日薨	五十六年九月十六日
	王子	天明六年四月廿四日誕生 同七年十二月三日薨	一年八月十日
	女王	寛政三年六月八日誕生 同四年六月廿日薨	一年〇十三日
	女王	寛政四年五月廿五日誕生 同年六月廿五日薨	一月一日
	女王	寛政五年十一月六日誕生 同七年二月十六日薨	一年三月十一日

嫡出 二、庶出 九、生母 八人。

計 十一 内 男 三、二十歳以上 二、二十歳以下 一、 女 八、同 一、同 七、

○貞敬親王―邦家親王
青蓮院―尊寶法親王
松下忠堯室―韶子
師子
一乘院―尊誠法親王
瑞龍寺―日尊
德川齊明室―英子
王子
錦織歡慈室―種子
女王
東本願寺光淨室―增子
王子
女王
王子
井上澤惠室―政子
隆子
一乘院―尊常法親王
守脩親王
王子
王子
王子
王子
王子
女王
女王
女王
王子
王子
女子
女王

享和二年十月廿四日誕生
明治五年八月五日薨
文化元年六月十九日誕生
天保三年九月四日薨
文化元年十二月廿五日誕生
天保四年六月廿五日薨
文化二年八月六日誕生
天保十二年三月廿七日薨
文化三年七月八日誕生
同日薨
文化三年八月十二日誕生
文政五年六月廿八日薨
文化四年十月十二日誕生
慶應四年十一月十二日薨
文化五年四月四日誕生
同年四月六日薨
文化五年六月十九日誕生
安政四年四月廿五日薨
文化七年正月四日誕生
八年十月廿九日薨
文化七年五月廿四日誕生
文久三年九月十三日薨
文化八年九月十九日誕生
同十年二月廿五日薨
文化十一年二月廿四日誕生
同十二年八月十七日薨
文化五年四月四日誕生
同年四月六日薨
文化十二年九月十五日誕生
安政六年十月廿三日薨

六十九年九月十二日
二十八年二月十六日
二十八年六月一日
三十五年五月廿二日
一日
十五年一月十七日
六十一年一月一日
三日
四十八年十月七日
一年九月廿六日
五十三年三月廿日
一年五月七日
一年五月廿四日
四十四年一月九日

靈鑑寺―宗諄
井上澤惠室―政子
一乘院―尊常法親王
守脩親王
王子
女王
王子
女王
王子
女王
王子
女王
王子
女王
王子
女王
王子
女王
王子
女王
王子
女王
王子
女王
王子
女王
王子
女王

文化十三年三月十二日誕生
同年四月四日薨
文化十三年十一月廿七日誕生
明治廿四年一月廿四日薨
文化十四年四月六日誕生
文政元年四月五日誕生
萬延元年六月廿三日薨
文政元年六月十四日誕生
天保七年五月九日薨
文政二年七月廿九日誕生
同年十一月廿六日薨
文政二年十月廿九日誕生
明治十四年九月一日薨
文政三年十二月七日誕生
天保二年二月十六日薨
文政四年二月廿五日誕生
同年七月十五日薨
文政五年六月廿二日誕生
同六年正月七日薨
文政五年九月五日誕生
同日薨
文政六年五月五日誕生
同年八月三日薨
文政七年五月廿七日誕生
同年同月晦日薨
文政七年閏八月廿七日誕生
同年十二月廿八日薨

廿三日
七十四年一月廿八日
四十二年二月十九日
十七年十月廿六日
三月廿八日
六十一年十月三日
十年二月十日
四月廿一日
六月十六日
一日
二月二十九日
四日
四月二日

一橋慶壽室	女王	文政八年五月廿八日誕生 同九年十二月十二日薨	一年六月十五日
	女王	文政十一年正月十七日誕生 同年二月二日薨	十六日
	女王	文政十一年八月一日誕生 同日薨	一日
	王子	天保十二年十月三日誕生 同月五日薨	三日
	直子	文政十三年九月十七日誕生 明治廿六年一月三日薨	六十三年三月十七日
	女王	文政年月日誕生 天保二年二月十八日薨	二十年以下
中宮寺	成淳	天保五年四月十一日誕生 元治二年正月晦日薨	三十年九月廿日

•嫡出 九、庶出 二六、生母 九人。

計 三五 內 男 一五、二十歲以上 三、二十歲以下 一二。

女 二〇、同 一〇、同 九、

不詳 一、

山階宮	晃親王	文化十三年二月二日誕生 明治三十一年二月十七日薨	八十二年〇十六日
聖護院	嘉言親王	文政四年正月廿六日誕生 慶應四年八月一日薨	四十七年五月廿一日
曼珠院	讓仁法親王	文政七年正月九日誕生 天保十三年六月廿九日薨	十八年五月廿一日
久邇宮	朝彥親王	文政七年正月廿八日誕生 明治廿四年十月廿九日薨	六十七年九月二日
二條齊敬室	恒子	文政九年正月二十日誕生	七十年以上
一條忠香室	順子	文政十年二月四日誕生	現存 七十年以上
大谷光勝室	哲圓	文政十一年正月七日誕生	同 七十年以上
	和子	文政十二年十二月廿五日誕生 明治十七年六月五日薨	五十四年五月十一日
	王子	天保六年十二月三日誕生 同日薨	一日
	•貞敎親王	天保七年九月十七日誕生 文久二年十月十四日薨	廿六年〇廿八日
	•錄子	天保十年正月十三日誕生 嘉永六年二月九日薨	十四年〇廿七日
	•王子	天保十三年四月廿一日誕生 嘉永四年五月十日薨	九年〇二十日
	女王	天保十四年正月七日誕生 同日薨	一日
	文秀	天保十五年正月廿九日誕生	現存 五十年以上

小松宮	彰仁親王	弘化三年三月十六日誕生	現存 五十年以上
北白川宮	能久親王	弘化四年二月十六日誕生 明治廿八年十一月五日薨	四十八年八月廿日
	王子	嘉永元年二月四日誕生 同 六年三月朔日薨	五年一月廿七日
	王子	嘉永二年六月廿三日誕生 同 四年五月四日薨	一年十月十二日
德川茂承室	則子	嘉永三年四月五日誕生 明治七年十一月十四日薨	廿四年七月十日
華頂宮	博經親王	嘉永四年三月廿六日誕生 明治九年五月廿四日薨	廿五年一月廿九日
	女王	嘉永五年正月晦日誕生 同 六年二月廿三日薨	一年〇二十四日
	日榮	安政二年二月十七日誕生	現存 四十年以上
	女王	安政三年六月七日誕生 同 五年正月廿九日薨	一年七月二十三日
北白川宮	智成親王	安政三年六月廿一日誕生 明治五年正月二日薨	十五年六月十二日
松平忠敬室	貴子	安政四年十一月廿日誕生	現存 四十年以上
○邦家親王	•貞愛親王	安政五年四月二十八日誕生	同 四十年以上
	女王	安政六年七月四日誕生 同 年七月八日薨	五日
	女王	萬延元年七月九日誕生 文久四年三月十二日薨	三年八月四日

清棲	家教	文久二年五月廿二日誕生	三十年以上
閑院宮	戴仁親王	慶應元年九月廿一日誕生	三十年以上
彰仁親王繼嗣	依仁親王	慶應三年九月十九日誕生	三十年以上
	女王	明治二年九月五日誕生 同 五年二月五日薨	二年五月一日

•嫡出 七、庶出 二五、生母 十人。

計 三二 内 男 一七、二十歳以上 一一、二十歳以下 六。
女 一五、同 八、同 七。

○貞愛親王 華頂宮	博恭王	明治八年十月十六日誕生	二十年以上
	•邦芳王	明治十三年三月十八日誕生	十九年十月十九日
	•昭德王	明治十四年十月六日誕生 同 十六年二月六日薨	一年四月一日
	禎子女	明治十八年六月廿七日誕生	二十年未滿

●嫡出 二、庶出 二、生母 三人。
計四 內 男 三、二十歲以上 一、
女 一、

華頂宮

○傳 經親王—●博厚親王 明治八年一月十八日誕生 同十六年二月十五日薨 八年〇二十八日

貞愛親王々子
○博 恭王—博義王 明治三十年十二月八日誕生 二十年未滿
　　└恭子女王 明治三十一年十一月十四日誕生 二十年未滿
●嫡出

山階宮

○晃親王—菊麿王 明治六年七月三日誕生 二十年以上
菊麿王—●武彥王 明治三十一年二月十三日誕生 二十年未滿

久邇宮

東園基愛室—榮子女王 明治元年正月廿五日誕生 三十年以上
池田詮政室—安喜子女王 明治三年六月八日誕生 二十年以上
　　└飛呂子女王 明治四年五月二日誕生 同廿二年十一月廿二日薨 十八年六月廿一日
竹內惟忠室—絢子女王 明治五年四月廿五日誕生 二十年以上
●邦憲王 慶應三年六日朔日誕生 三十年以上

○朝彦親王
- 邦彦王　明治六年七月廿三日誕生　二十年以上
- 梨本宮守正王　明治七年三月九日誕生　二十年以上
- 多賀王　明治八年八月十七日誕生　二十年以上
- 仙石政敬室素子女王　明治九年三月廿七日誕生　二十年以上
- 暢王　明治九年十二月廿八日誕生　同十年八月七日薨　七月十日
- 懐子女王　明治十一年六月廿一日誕生　同十二年七月十六日薨　一年〇二十六日
- 篤子女王　明治十一年十月十六日誕生　二十年以上
- 王子　明治十四年九月廿四日誕生　同日薨　一日
- 純子女王　明治十七年三月九日誕生　二十年未満
- 鳩彦王　明治廿年十月二日誕生　二十年未満
- 稔彦王　明治廿年十二月三日誕生　二十年以上

生母五人。

計十六　内　男八、二十歳以上　四、二十歳以下　四、
女八、同　五、同　三、

○邦憲王
- 由紀子女王　明治廿八年十一月廿三日誕生　二十年未満

北白川宮

○能久親王
- 恒久王　明治十五年九月廿二日誕生　十月一日
- 延久王　明治十八年八月廿八日誕生　同十九年六月廿八日薨
- 満子女王　明治十八年十月十九日誕生
- 成久王　明治廿年四月十八日誕生
- 貞子女王　明治廿年八月六日誕生
- 輝久王　明治廿一年八月十二日誕生

武子女王	明治廿三年三月廿八日薨生	
信子女王	明治廿四年十二月廿日誕生 同　廿五年一月廿二日薨	一ケ月三日
擴子女王	明治廿八年五月廿八日誕生	

●嫡出　一、庶出　八、生母　四人。

計九　内　男四、二十歳以上　○

女五、同　○

有栖川宮

靈元天皇々子

○職仁親王	音仁親王	享保十四年八月十一日誕生 寶暦五年九月五日薨	廿六年廿五日
梶井門室	叡仁法親王	享保十五年十一月廿三日誕 寶暦三年七月廿二日薨	廿二年八月
仁和寺	覺仁法親王	享保十七年七月十五日誕生 寶暦四年九月廿一日薨	廿二年二月七日
實相院	增償法親王	享保十九年四月十三日誕生 昭和七年閏六月廿五日薨	三十六年二月十三日
	王子	元文二年九月十日誕生 延享元年九月二日薨	六年十一月廿三日
	職子女王	延享二年九月廿四日誕生 天明六年十二月十三日薨	四十一年二月廿日
圓照寺	文享尼王	延享三年十一月廿三日誕生 明和七年四日薨	廿三年七月十二日
中宮寺	榮恕尼王	寛延二年四月二日誕生 安永五年五月廿二日薨	廿七年一月廿一日
梶井門室	常仁法親王	寶暦元年十二月廿二日誕生 明和九年四月廿三日薨	廿年四月二日
○	織仁親王	寶暦三年七月三日誕生 文政三年二月廿日薨	六十六年七月十八日
近衛經照へ降嫁	薫子女王	寶暦九年三月十一日誕生 天保十二年十月十日薨	八十二年七月

圖書寮有栖川宮系譜

●嫡出 二、庶出 九、生母 五人。

計 一一 内 男 七、二十歳以上 六、二十歳以下 一、
女 四、同 四、同 〇、

嫁于佛光寺 生二男三女 ─ 女 王 延享三年三月二日誕生 文化十一年十一月廿四日薨
專修寺圓遵 ─ 王 子 延享三年十一月廿三日誕生 文政二年十月廿三日薨
瑞龍寺日圓 ─ 女 王 寶曆三年三月廿五日誕生 安永七年閏七年廿一日薨 廿五年三月廿七日

生母 二人。

計 三 内 男 一、二十歳以上
女 二、

藝州へ降嫁 ─ 王 子 安永五年三月廿三日誕生 同六年正月廿六日薨 十月四日
毛利齊房へ降嫁 ─ ●織子女王 安永九年七月十四日誕生 寛政八年五月廿九日薨 十五年十月十六日
　　 ─ ●幸子女王 天明二年七月十四日誕生 嘉永九年九月八日薨 七十年一月廿五日

○織仁親王 ─ 韶仁親王 天明四年十二月廿九日誕生 弘化二年二月廿八日薨 六十年二月十日
中宮寺 ─ 女 王 天明七年正月十六日誕生 弘化三年六月廿二日薨 五十九年五月七日
梶井門跡 ─ 王 子 天明七年十二月廿九日誕生 天保十二年正月十四日薨 五十三年〇十六日
輪王寺 ─ 王 子 寛政元年二月一日誕生 天保十四年九月廿六日薨 五十四年七月廿六日
　　 ─ 女 王 寛政元年十月十六日誕生 同二年十二月二十四日薨 一年二月九日
　　 ─ 女 王 寛政二年二月廿五日誕生 同三年四月五日薨 一年一月十一日
中宮寺 ─ 尊照榮暉尼 寛政四年十二月十六日誕生 弘化二年五月十二日薨 五十二年四月廿七日
　　 ─ 女 王 寛政四年十二月廿一日誕生 文化十四年八月廿六日薨 廿四年八月六日
德川家慶へ降嫁 ─ 喬子女王 寛政七年六月十四日誕生 天保十一年正月廿四日薨 四十四年七月十一日
　　 ─ 女 王 寛政七年九月五日誕生 同八年正月七日薨 四月三日
　　 ─ 女 王 寛政八年十一月二日誕生 文化四年八月十五日薨 十年九月十四日
仁和寺 ─ 王 子 寛政九年三月七日誕生 弘化四年十二月廿四日薨 五十年九月十八日
近衛基前へ降嫁 ─ 女 王 寛政十年七月廿日誕生 文政二年十月六日薨 廿一年二月十七日
　　 ─ 王 子 寛政十年七月廿三日誕生 同年十月五日薨 二月十三日

知恩院―王子　寛政十二年十二月十五日誕生　同年十二月廿九日薨
　　―王子　享和二年七月十日誕生　嘉永五年八月廿一日薨
水戸齊韶へ降嫁―女王　文化元年九月廿五日誕生　明治廿六年一月廿七日薨

●嫡出　二、庶出　一八、生母　八人。

計二〇　内　男　八、　二十歳以上　五、　二十歳以下　三、
　　女　一二、　同　七、　同　五、

○韶仁親王―女王　文化六年七月十四日誕生　同七年七月八日薨
　　―幟仁親王　文化九年正月五日誕生　明治十九年正月廿四日薨
輪王寺―王子　文化十年八月廿六日誕生　廖應三年十二月廿四日薨
輪王寺新宮―王子　文化十二年九月十二日誕生　弘化三年十月十九日薨
西園寺家相續―王子（名公潔）　文化十四年正月三十日誕生　天保七年五月二日薨
　　―女王　文政四年十月廿一日誕生　同六年七月六日薨
　　―女王　文政五年十一月十七日誕生　同六年六月八日薨

十　五　日
七十四年〇廿日
五十四年三月廿九日
三十一年一月八日
十九年三月三日
一年八月十六日
六月二十二日

徳川家慶養女―韶子女王　文政八年五月十九日誕生

●嫡出　三、庶出　五、生母　三人。

計八　内　男四、　二十歳以上　三、　二十歳以下　一、
　　女四、　同　一、　同　三、

○幟仁親王―燾仁親王　天保六年二月廿五日誕生　明治廿八年一月廿四日薨　五十九年十一月
徳川家慶養女―幟子女王　天保六年十一月一日誕生　安政三年十一月十九日薨　廿一年〇十九日
　　―女王　天保七年六月廿六日誕生　同十四年七月七日薨　七年〇十二日
　　―王子　天保九年九月十五日誕生　同十四年六月十七日薨　四年九月三日
井伊直憲へ降嫁―宜子女王　天保十一年四月二日誕生　同十四年七月九日薨　三年三月八日
貞愛親王妃―利子女王　嘉永四年二月廿六日誕生　明治廿八年一月四日薨　四十三年十月九日
　　―威仁親王　安政五年五月廿一日誕生
●嫡出　二、庶出　六、生母　六人。　文久二年正月十三日誕生

計八　內　男四、二十歲以上　二、二十歲以下　二、
　　女四、同　三、同　一、

○威仁親王
- 績子女王　明治十八年十月十七日誕生　同十九年九月三十日薨
- 栽仁王　明治廿年九月廿二日誕生
- 實枝子女王　明治廿四年二月十四日誕生
- 嫡出　三、

十一月十四日

閑院宮

西本願寺光啓室
- 女王　享保五年七月十三日誕生　延享四年二月廿五日薨

二十六年七月十三日

輪王寺
- 王子　享保八年正月三十日誕生　同日薨

一日

○直仁親王　東山天皇々子
- 女王　享保十二年六月廿二日誕生　同日薨

一日

- 公啓法親王　享保十八年二月二十七日誕生　明和九年六月二十五日薨

三十九年三月廿九日

- 典仁親王　享保十八年二月廿七日誕生　寛政六年七月六日薨

六十一年四月十日

三恃知恩寺
- 尊信女王　享保十九年十月九日誕生　享和元年九月廿五日薨

六十六年十月十七日

京極公仁親王妃
- 室子女王　元文元年六月二十五日誕生　實曆六年六月廿日薨

十九年十一月廿六日

法華寺
- 直如高覺　元文二年八月廿一誕生　明和元年十一月十四日薨

二十七年二月廿四日

德川家治室
- 倫子女王　元文三年正月廿日誕生　明和八年八月廿日薨

三十三年七月一日

繼鷹司名輔平
- 王子　元文五年二月八日誕生　文化十年正月元日薨

二年十月廿四日

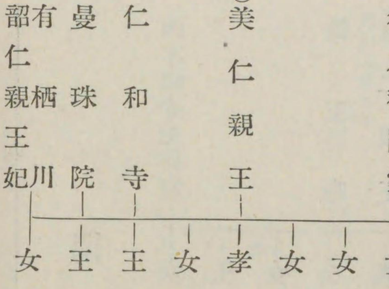
林丘寺
- 博山元徹　寛延三年七月十二日誕生　寛政九年十二月十五日薨

四十七年五月四日

●嫡出 二、庶出 九。

計一一 内 男四、二十歳以上 三、二十歳以下 一、
女七、同 五、同 二、

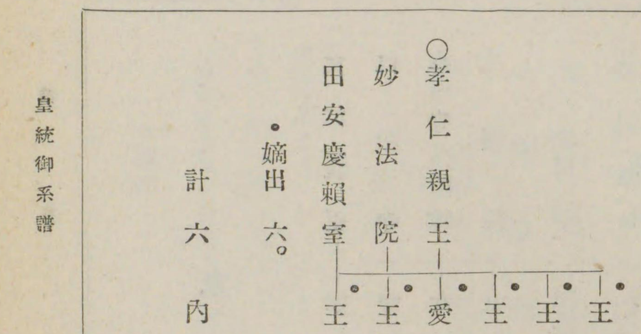
○典仁親王—美仁親王 御兄弟ハ皇統御系譜ニ載ス



德川齊匡室	女王	天明二年三月廿六日誕生 文政八年九月廿九日薨	四十三年六月四日
	女王	寛政三年七月九日誕生 同六年正月十七日薨	二年六月九日
	女王	寛政三年十月二日誕生 同四年六月三十日薨	八月二十九日
○美仁親王	孝仁親王	寛政四年五月廿八日誕生 文政七年二月九日薨	三十一年八月十二日
	女王	寛政五年八月九日誕生 同年九月十三日薨	一月五日
仁和寺	王子	寛政九年五月十二日誕生 享和元年四月十日薨	三年十月二十九日
曼珠院	王子	寛政十年十一月廿六日誕生 享和二年八月八日薨	三年八月十日
有栖川 韶仁親王妃	女王	寛政十二年十二月十日誕生 慶應二年九月十八日薨	六十五年九月九日

生母 四人。

計八 内 男三、二十歳以上 一、二十歳以下 二、
女五、同 二、同 三、



	王女	文化八年正月元日誕生 同年六月六日薨	五月六日
	王子	文化九年六月廿日誕生 同十年八月六日薨	一年一月十七日
	王女	文化十二年二月廿一日誕生 同十三年四月七日薨	一年一月十七日
○孝仁親王	愛仁親王	文政元年正月十三日誕生 天保十三年九月十四日薨	廿四年八月二日
妙法院	王子	文政二年閏四月廿七日誕生 嘉永五年十二月九日薨	三十三年七月廿四日
田安慶賴室	王女	文政二年閏四月廿七日誕生	八十年以上

●嫡出 六。

計六 内 男三、二十歳以上 二、二十歳以下 一、
女三、同 一、同 二、

京極宮桂

○文仁親王（靈元天皇々子）
- 家仁親王　元祿十六年四月一日誕生　明和四年十二月六日薨　六十四年八月六日
- 仁和寺　守恕法親王　寶永三年十二月廿七日誕生　享保十四年四月九日薨　二十二年三月十三日
- 專修寺へ降嫁　女　王　寶永七年十一月四日誕生　安永八年五月廿二日薨　六十八年六月十九日
- 先照院　女　王　正德元年九月十八日誕生　享保十六年七月廿五日薨　十九年十月八日

庶出四、生母一人。

計四　內　男二、二十歲以上　二、二十歲以下　〇
女二、同　一、同　一、

- 有馬賴僮室　女　王　享保六年閏七月十七日誕生　安永三年正月十四日薨　五十二年五月廿八日
- 女　王　享保十年四月六日誕生　即日薨　一日
- 女　王　享保十五年十月十五日誕生　同年十一月十一日薨　廿七日

○家仁親王
- 公仁親王　享保十八年正月五日誕生　明和七年六月廿二日薨　三十七年五月十八日
- 知恩院　尊峰法親王　元文六年正月八日誕生　元明八年七月廿一日薨　四十七年六月十四日
- 一乘院　尊映法親王　延享三年十月廿九日誕生　寬政五年十二月九日薨　四十七生一月十一日

嫡出二、庶出四、生母四人。

計六　內　男三、二十歲以上　三、二十歲以下　〇、
女三、同　一、同　二、

○公仁親王
- 德川民部卿へ降嫁　女　王　寶曆六年六月十九日誕生　明和七年七月十二日薨　十四年〇廿四日

・嫡出

伏見邦家親王々子

○載仁親王

- 篤仁王　明治廿七年七月九日誕生　同年七月十日薨　二日
- 恭子女王　明治廿九年五月十三日誕生　二十年未滿
- 茂子女王　明治三十年五月廿九日誕生　二十年未滿
- 季子女王　明治三十一年十一月二日誕生　二十年未滿

・嫡出

登極令草案

第一章　皇嗣踐祚
第二章　三后稱謂
第三章　天皇卽位
第四章　皇統譜登錄
第五章　改元

凡十八條

第一章　皇嗣踐祚

第一條　皇嗣踐祚ノ禮ハ大行天皇ノ喪ヲ發スル當日ニ於テ之ヲ行フ

第二條　皇嗣踐祚ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ之ヲ行フ

第三條　皇嗣踐祚スルトキハ掌典長ニ命ジ賢所ニ祭典ヲ行ハシム

第四條　皇嗣踐祚スルトキハ掌典長ニ命ジ之ヲ皇靈殿、神殿ニ奉ゼシム

第五條　皇嗣ノ踐祚ハ內閣總理大臣之ヲ公告シ其ノ儀式ニ關スル事項ハ宮內大臣之ヲ公告ス

第二章　三后稱謂

第六條　皇嗣踐祚スルトキハ皇嗣ノ妃ヲ稱シテ皇后トシ大行天皇ノ皇后ヲ稱シテ皇太后トシ皇太后在ラバ之ヲ稱シテ太皇太后トス

第七條　三后ノ稱謂ハ宮內大臣之ヲ公告ス

第三章　天皇卽位

第八條　卽位ノ禮ハ諒闇終リタルトキニ於テ之ヲ行フ

第九條　天皇卽位ノ禮ヲ行フ期日定マリタルトキハ奉幣使ヲ神宮、神武天皇、天智天皇及ビ前帝四世ノ山陵ニ發遣シ卽位ノ由ヲ奉告セシム

第十條　天皇卽位ノ禮ヲ行フ期日定マリタルトキハ內閣總理大臣之ヲ公告シ其ノ儀式ニ關スル事項ハ宮內大臣之ヲ公告ス

第十一條　卽位ノ禮ヲ行フ期日ニ先チ天皇神器ヲ奉ジ京都ノ皇宮ニ移御ス